

第3期 高知県スポーツ推進計画 Ver.2 (案)

令和7年3月

目 次

第1章 計画の概要..... 1

1. 計画策定の背景及び趣旨.....2
2. 計画の位置付け.....2
3. 計画の期間.....2

第2章 本県スポーツの現状と課題.....3

1. 地域スポーツの状況.....4
2. 競技スポーツの状況.....9
3. スポーツツーリズム・国際交流の状況.....12
4. スポーツにおけるデジタル技術の活用状況.....13

第3章 計画の基本方針.....14

1. 第3期高知県スポーツ推進計画が目指すもの.....15
2. 目指す姿・基本理念・取り組み目標.....16

第4章 具体的な施策..... 18

1. 具体的な施策.....19
2. 重点施策（ポンチ絵）.....34
3. 指標一覧.....46

第5章 計画の進捗管理.....50

1. 進捗管理.....51
2. 体制図.....51

第1章

計画の概要

第1章 計画の概要

1. 計画策定の背景及び趣旨

高知県は、人口減少や中山間地域の衰退をはじめ南海トラフ地震への備えなど、多くの課題を抱えており、県では、これまで課題解決の先進県を目指して、「経済の活性化」や「日本一の健康長寿県づくり」、「南海トラフ地震対策の抜本的強化・加速化」など5つの基本政策と、「中山間対策の充実・強化」や、「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」、「文化芸術とスポーツの振興」の3つの横断的に関わる政策を全力で実行してきました。

こうした中、平成25年11月に、県民のスポーツニーズの多様化や本県のスポーツを取り巻く環境の変化に応じたスポーツ振興を目指して、「高知県スポーツ推進計画」を策定し、取り組みを進めてまいりました。さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を受けて、平成27年3月に、高知県スポーツ推進計画の核となる取り組みの強化を目的に、「スポーツ推進プロジェクト実施計画」を策定し、高知県スポーツ推進計画の総合的な推進を図ってまいりました。

この間、国では、平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」に基づき、平成24年3月に、今後の我が国のスポーツ施策の具体的な方向性を示す「スポーツ基本計画」が策定され、平成27年10月にはスポーツ庁を設立し、令和4年3月には「第3期スポーツ基本計画」が新たに策定されました。

本県においても、スポーツ行政をより効果的・一体的に推進するため、平成29年4月に、それまで教育委員会が所管していたスポーツ行政（学校体育関係を除く）のほか、スポーツツーリズムや障害者スポーツなどのスポーツ関連施策を知事部局に一元化し、新たに文化生活スポーツ部を設置しました。

こうした中、「高知県スポーツ推進計画」及び「スポーツ推進プロジェクト実施計画」を統合し、県民をはじめ、市町村やスポーツ関係団体などと連携・協働し、県民がスポーツを通じて健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らすことのできる社会の実現をより確実なものとするため、平成30年度から令和4年度までの5年間を対象期間とする「第2期高知県スポーツ推進計画」を平成30年3月に策定しました。

この期間中、令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツ活動が大きく制限される中、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を経験し、改めてスポーツの素晴らしさを知ることとなりました。

こうしたことに加え、人口減少や少子高齢化の進行によるスポーツの地域間格差や、デジタル技術の進化によるライフスタイルの変化への対応、スポーツを通じた健康増進・地域活性化・共生社会の実現に向けた取り組みに大きな期待が集まっています。

このような第2期計画の期間中の動向を踏まえ、本県のスポーツのさらなる充実に向けて「第3期高知県スポーツ推進計画」を策定し、さらに、2024年パリオリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ機運の高まりやスポーツ活動へのニーズの変化に対応するため、取り組みの見直しや追加を行い「第3期高知県スポーツ推進計画Ver.2」へバージョンアップしました。

2. 計画の位置付け

この計画は、スポーツ基本法第10条第1項に定める国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即して定めることとされている「地方スポーツ推進計画」であり、本県のスポーツの推進を図るための基本的な方向性を示すものです。

3. 計画の期間

令和5(2023)年度から令和9(2027)年度までの5年間とします。

第2章

本県スポーツの現状と課題

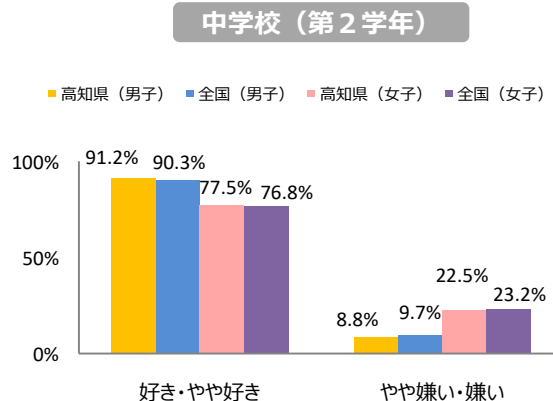
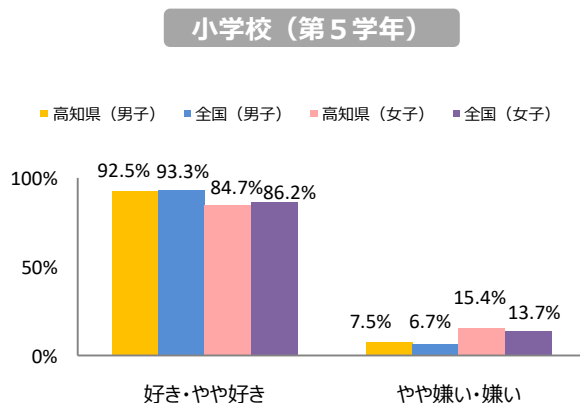
■子どものスポーツ

【現状・課題】

- 運動やスポーツが好きな子どもの割合は男女とも全国よりは少し高いが、男子よりも女子の割合が低い。
- 小・中学校男女ともに体力合計点が全国平均を上回っている。全国順位は、小学校男子が25位、小学校女子が20位、中学校男子が23位、中学校女子が21位となっている。
- 1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合は、男子よりも女子が高い。また、小学校は男女ともに全国と比較して低く、中学校は男女ともに全国より高くなっている。
- スポーツ少年団の団数が減少しており、地域によっては子どもがスポーツできる場が少ない地域がある。

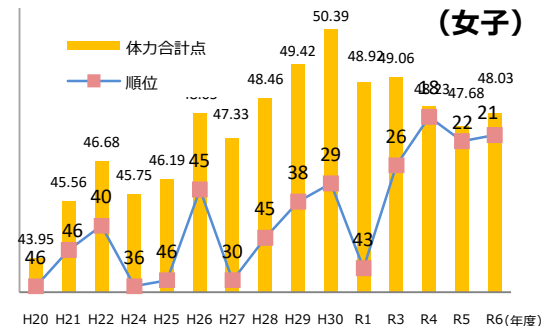
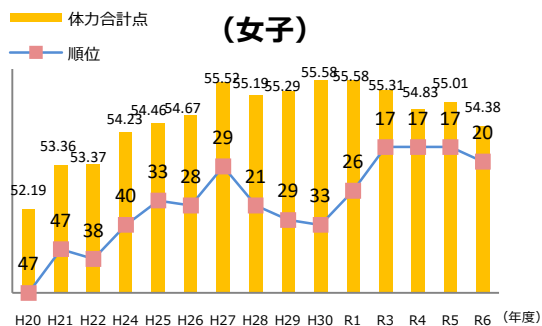
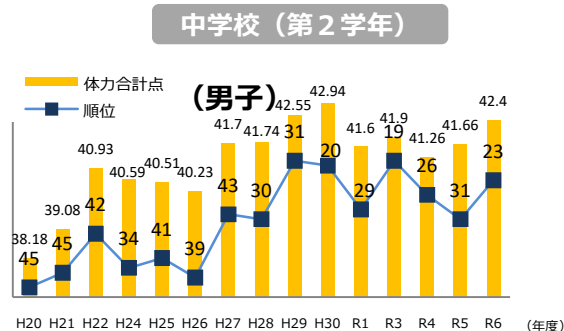
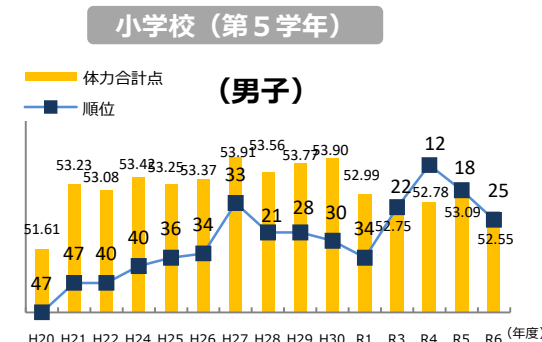
○運動やスポーツが好きな子どもの割合

※R6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査



○子どもの体力

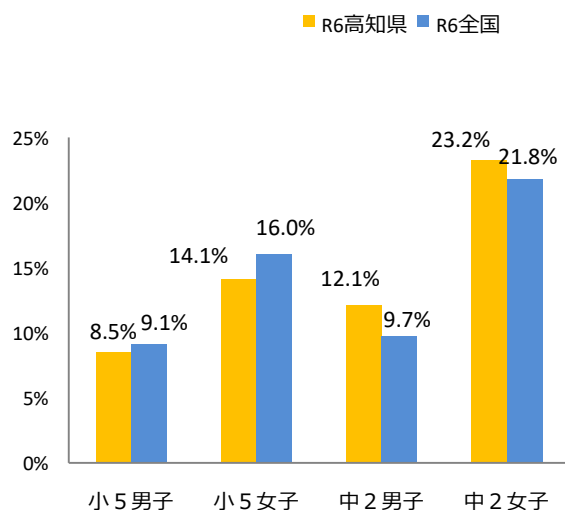
※R6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査



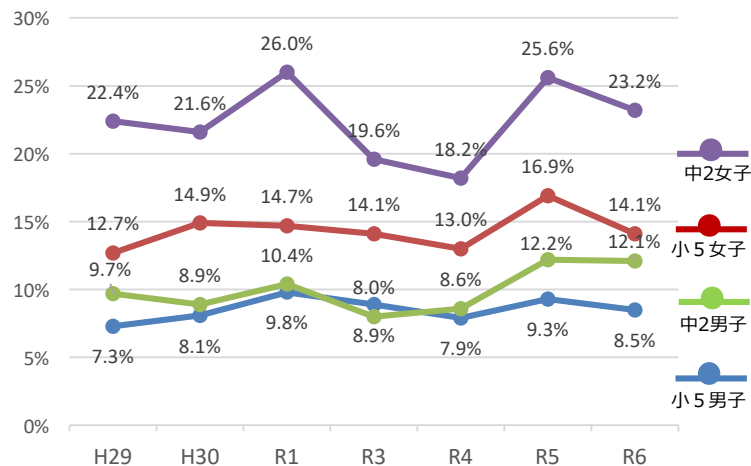
○1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合

※R6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

※R2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、調査不実施

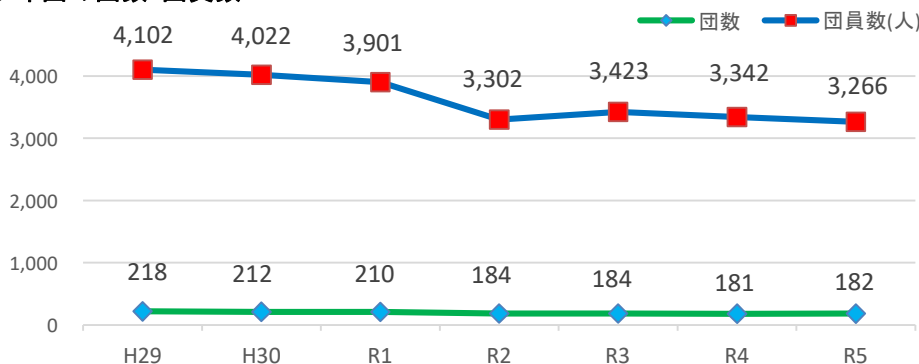


県内の総運動時間60分未満の推移



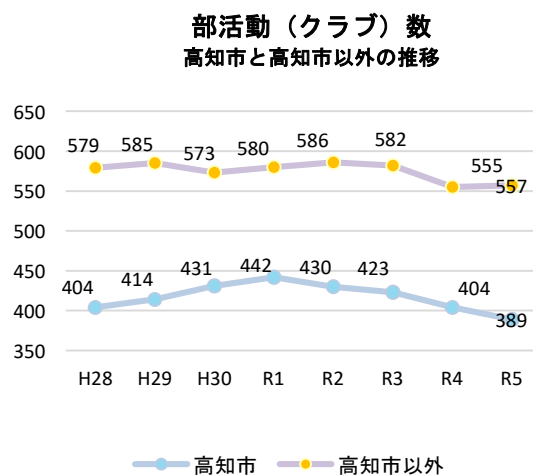
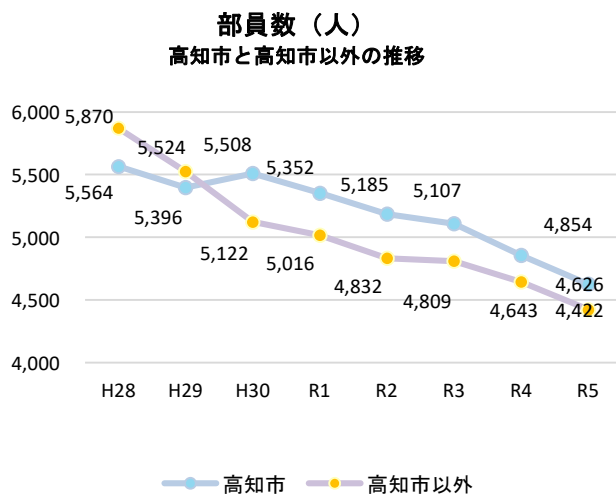
○スポーツ少年団の団数・団員数

※日本スポーツ協会HP



○中学校の運動部活動数・部員数

※R5 保健体育課調べ



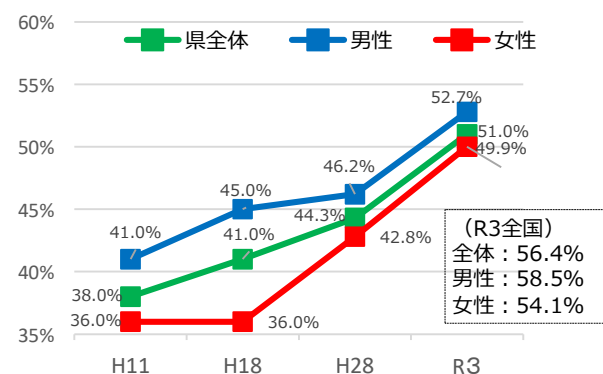
■地域スポーツ

【現状・課題】

- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較するとまだ低く、性別や年代、地域によって差がみられる。
- スポーツのボランティア活動については、「すでに行っている」者の割合は2.2%と低く、「あまり行いたくない」、「行うつもりはない」といった否定的な意見の割合が6割を超えている。
- スポーツ観戦に関心がある者の割合は74.8%となっており、前回調査から増加している。
- スポーツを支える有資格者は増加傾向にあるが、さらに増やす必要がある。
- 市町村におけるスポーツ活動を支えているスポーツ推進委員は比較的年齢層が高く、人材の確保が懸念されている。
- 健康づくり無関心層や、関心はあるものの行動に踏み出せていない方への後押しが必要。
- 市町村でのスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性は感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。

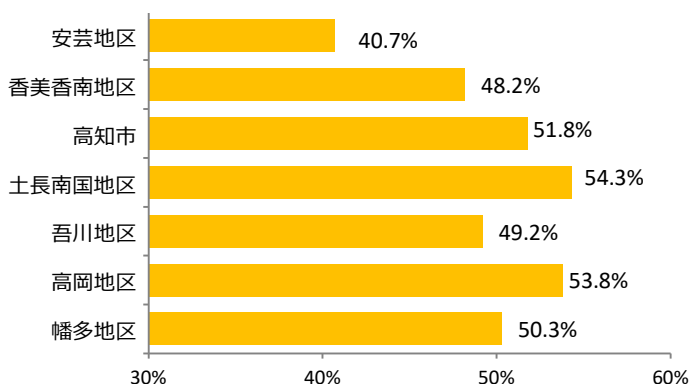
○成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率の推移

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



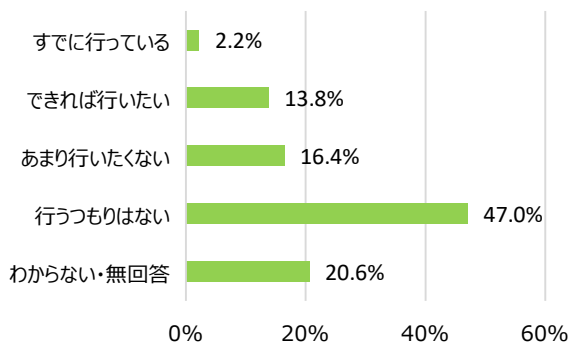
○成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率(地域別)

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



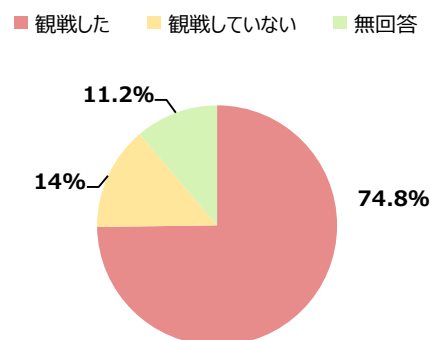
○スポーツのボランティア活動

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



○スポーツ観戦の状況

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



○主なスポーツ指導者数(有資格者)

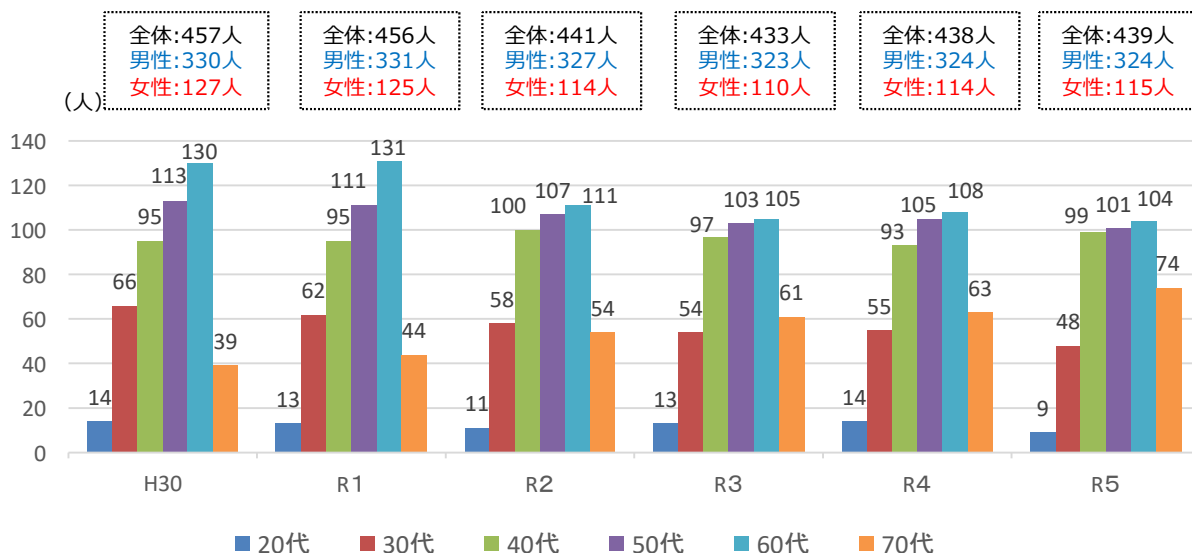
※R4 日本スポーツ協会、日本レクリエーション協会、健康・体力づくり事業財団調べ

(単位：人)

公認団体	資格	取得者数				
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
日本スポーツ協会	スタートコーチ	—	40	55	132	187
	コーチ・教師・上級教師	1,313	1,361	1,371	1,419	1,478
日本レクリエーション協会	インストラクター等	640	583	536	471	410
健康・体力づくり事業財団	健康運動指導士	55	55	55	56	56
	健康運動実践指導者	49	43	35	35	32

○スポーツ推進委員 年代別人数

※R5 県スポーツ課調べ



○日常生活における歩数

※R4 県民健康・栄養調査

H28	R4
●20～64歳 男性:6,387歩 女性:6,277歩 ●65歳以上 男性:4,572歩 女性:4,459歩	●20～64歳 男性:6,210歩 女性:5,960歩 ●65歳以上 男性:4,894歩 女性:4,229歩

○市町村におけるスポーツ振興を行う上での課題

※R4 県スポーツ課調べ

(単位:市町村数)

- ①子どものスポーツ環境の整備・充実 (30)
- ②課題対策を進めるためのスタッフの不足 (30)
- ③課題対策に取り組むための財源不足 (29)
- ④課題の把握や検討する場の設定などの調整役となる人材の確保 (21)
- ⑤財政的な支援だけでなく、県職員や民間事業者による側面的な支援が必要 (21)
- ⑥多分野の関係者が課題について検討・対応する体制が必要 (20)

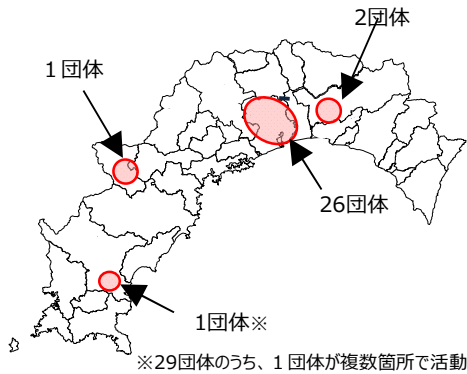
■障害者スポーツ

【現状・課題】

- 障害者がスポーツ活動ができる場が少なく、高知市周辺に集中している。
- 競技選手として活動している人数（中央競技団体への登録者数）は新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた時期から増加の兆しがみられるものの、まだ少ない。
- 県立障害者スポーツセンターの障害者の利用は新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少傾向である。
- 障害者のスポーツ活動を支えるパラスポーツ指導員数はまだ少ない。
- 障害者スポーツへの関心は、「関心がある」と「やや関心がある」者の割合が47.9%でまだ高いとは言えない。

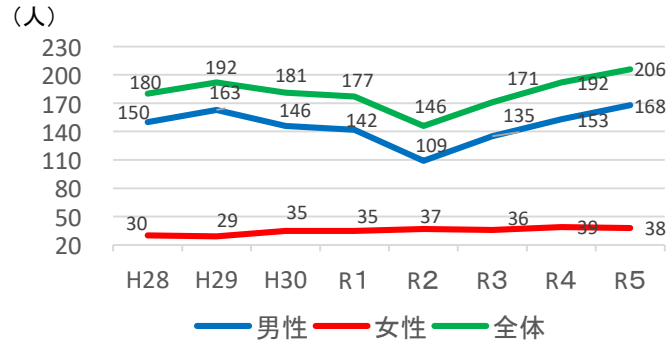
○障害者スポーツ団体・チーム

※R5 県立障害者スポーツセンター調べ



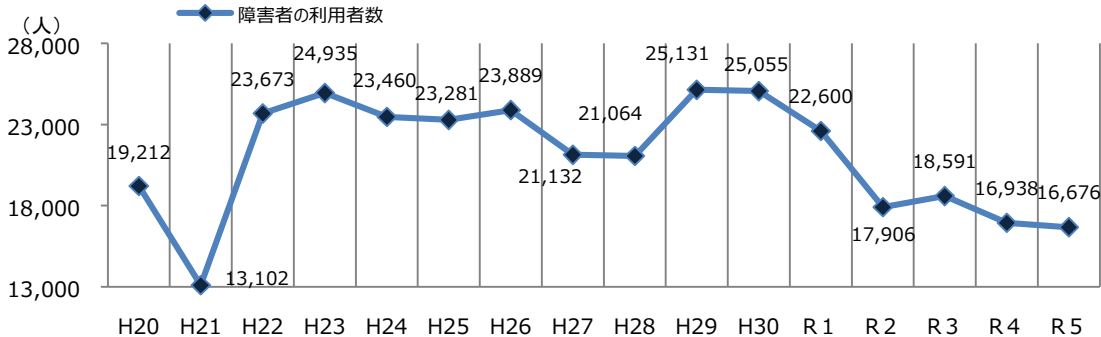
○中央競技団体への登録者数

※R5 県立障害者スポーツセンター調べ



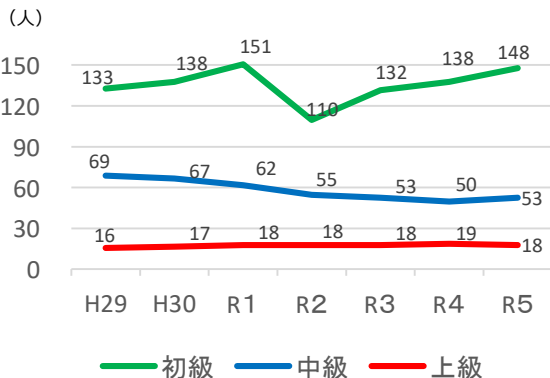
○県立障害者スポーツセンターの障害者の利用者数

※R5 県立障害者スポーツセンター調べ



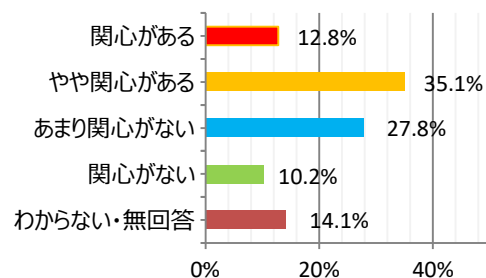
○パラスポーツ指導数

※日本パラスポーツ協会HP



○障害者スポーツへの関心

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

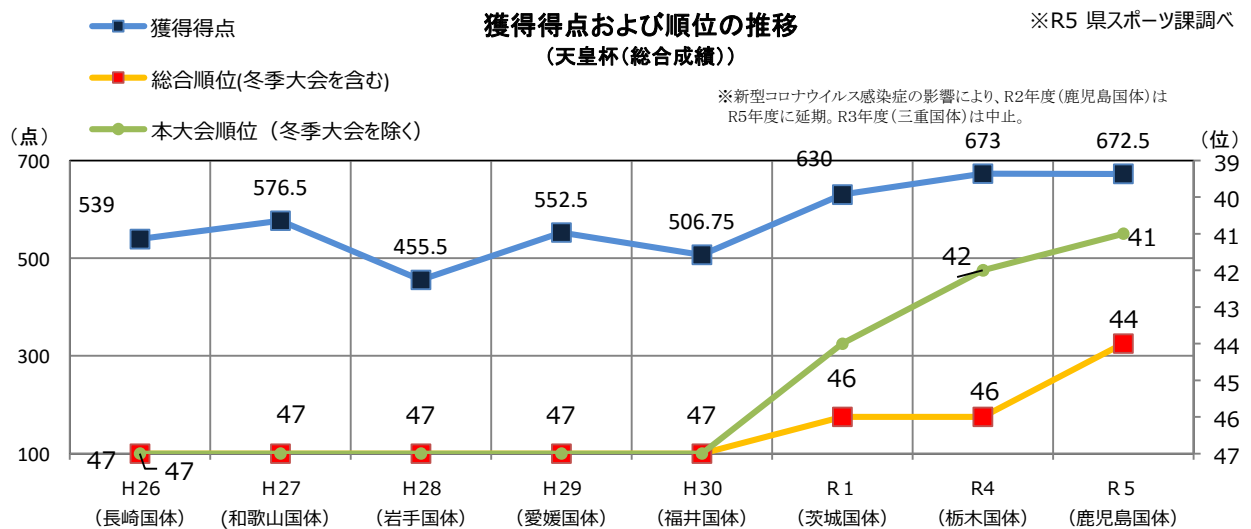


■競技スポーツ

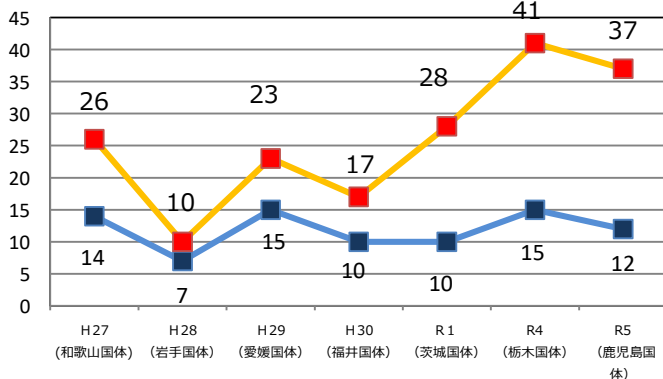
【現状・課題】

- 全国や世界の舞台で優秀な成績を収めている選手は育ってきており、国民スポーツ大会では入賞数が増加し総合順位は着実に上がってきているが、安定して上位をねらうことができる競技がまだ限定的で、競技力の全体的な底上げが必要。
- 子どもの総数に対する子どもの競技人口の割合は少し増加しているが、次代を担う子どもの競技人口の数、割合ともに増やすことが必要。
- 日本スポーツ協会公認の有資格指導者は増加傾向にあるが、より質の高い指導が行われるよう有資格者を増やすことが必要。
- 障害者のスポーツ活動を支援するパラスポーツ指導員は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたが、増加傾向にある。
- スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人が求められている。
- スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体は増えてきているものの、まだ活用していない競技団体がみられる。
- 県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取り組みが県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。

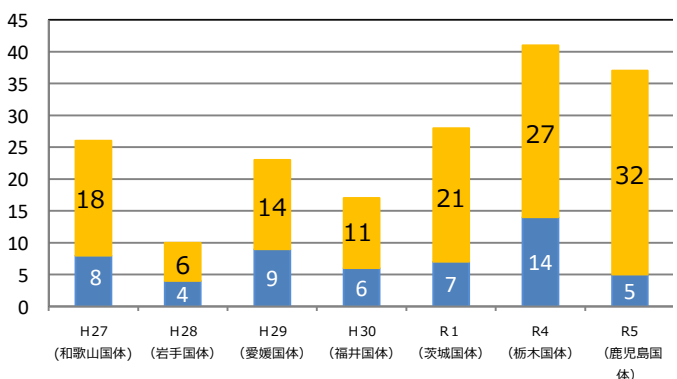
○国民スポーツ大会の成績



入賞競技数及び種目数



個人種目と団体種目の入賞数



○日本代表選手数及び国際大会入賞数・競技数

※R5 県スポーツ課調べ

年度	代表選手数	入賞数	競技数
H29	35	20	12
H30	46	28	19
R1	31	16	8
R2	—	—	—
R3	9	7	7
R4	19	11	8
R5	34	29	16

○中高校生の全国大会の入賞競技数

※R5 県スポーツ課調べ

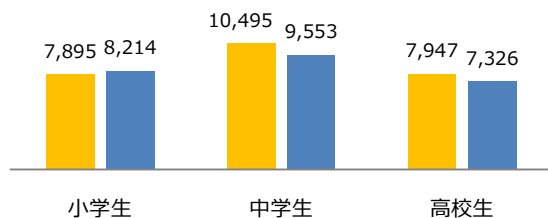
年度	H29	H30	R1	R3	R4	R5
全国中学校 体育大会	6	5	5	6	7	7
全国高等学校 総合体育大会 (インターハイ)	6	5	8	7	10	9

競技人口

■平成28年度
■令和5年度

※R5県スポーツ協会調べ

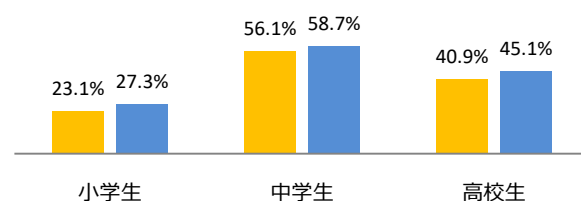
(人)



児童生徒総数に対する競技人口割合

■平成28年度
■令和5年度

※R5 県スポーツ課調べ



○スポーツ指導者数(有資格者)

※R5 日本スポーツ協会・日本パラスポーツ協会公表資料

(人)

公認団体	資格	取得者数					
		H30	R1	R2	R3	R4	R5
日本スポーツ協会 ・公認指導者	スタートコーチ	—	—	—	55	132	187
	コーチ等	1,240	1,313	1,361	1,371	1,419	1,478
日本パラスポーツ協会 ・パラスポーツ指導員※	初級	138	151	110	132	138	148
	中級	67	62	55	53	50	53
	上級	17	18	18	18	19	18

※ R5年4月1日から指導者資格の名称が「障がい者スポーツ指導員」から「パラスポーツ指導員」に変更

○スポーツ指導者に求めるもの

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

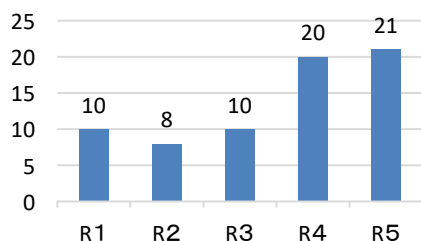
- ①スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人:68.3%
- ②健康・体力づくりの運動やスポーツの指導ができる人:44.0%
- ③スポーツの医学的な知識や技術をスポーツの指導に活用ができる人:35.4%
- ④障害者や高齢者のスポーツの指導ができる人:29.5%
- ⑤年間を通して定期的に指導ができる人:28.5%

○高知県スポーツ科学センターの活用状況

※R5 県スポーツ課調べ

※R5 県スポーツ課調べ

組織的に活用している競技団体数



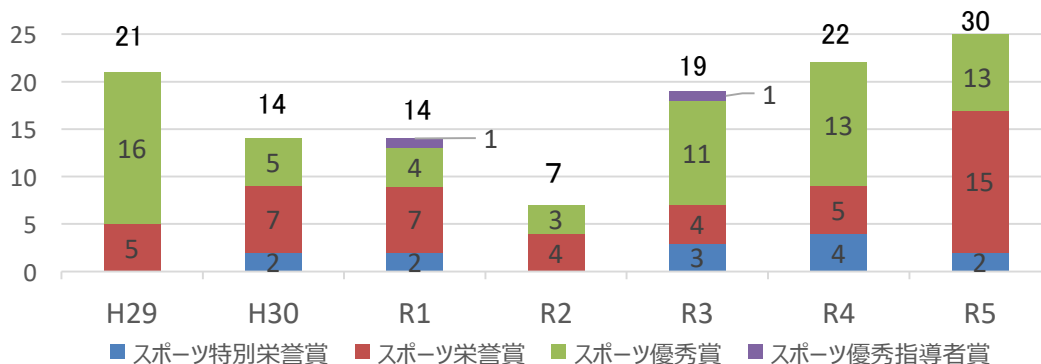
サポート内容別利用者数

(人)

サポート内容	R1	R2	R3	R4	R5
専門体力測定	514	466	498	1,422	1,179
コンディショニング	461	713	821	3,304	3,870
メンタルトレーニング	41	106	4	356	373
栄養指導	168	62	122	631	603
パフォーマンス分析	75	169	84	421	670

○高知県スポーツ顕彰受賞数の推移

※R5 県スポーツ課調べ



- ・**スポーツ特別栄誉賞**：オリンピック、パラリンピック、デフリンピック、世界選手権で第1位から第3位までの入賞者等
- ・**スポーツ栄誉賞**：上記以外の国際大会で第1位から第3位までの入賞者等
- ・**スポーツ優秀賞**：国民体育大会等の全国大会で第1位となった者
- ・**スポーツ優秀指導者賞**：特別栄誉賞受賞者の指導に特に貢献があった者

○タレント発掘・育成事業の現状(高知くろしおキッズ)

※R5 県スポーツ課調べ

※高知くろしおキッズとは、様々なスポーツの分野で高知県内の将来有望なタレントを発掘し、ジュニアアスリート（小学校4年～6年）を育成するプログラム

項目	成果
修了生	H22年度からR5年度 延べ265人
H27年からの主な成績	国際大会出場者数：合計6名 主な成績： ・全国小学生陸上交流大会 女子100m優勝（大会新記録） ・全日本中学校陸上競技選手権大会 女子200m優勝 女子100m優勝 ・女子Jr日本代表（ハンドボール） ・女子レスリング全日本Jrオリンピック優勝 ・男子フェンシング(サーブル)インターハイ入賞 ・卓球国際大会Jrベスト8 等
競技種目の転向等	毎年10%程度が種目転向や本事業を通じて競技を始めた

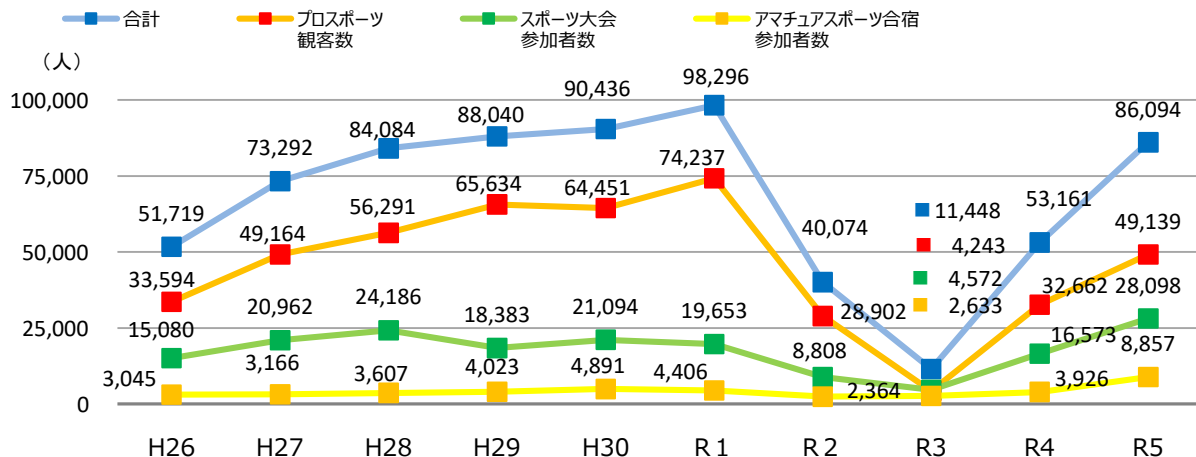
■スポーツツーリズム

【現状・課題】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいたスポーツによる県外からの入込客数は回復傾向がみられる。
- アマチュアスポーツ合宿は関西圏からの来県が中心となっている。また、一部の競技に集中しているとともに、県内で受け入れる地域が限定的である。

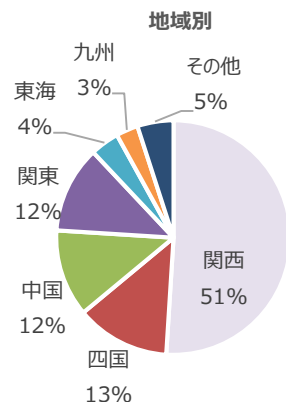
○スポーツ関連イベントによる県外からの来客数

※R5 県スポーツツーリズム課調べ



○アマチュアスポーツ合宿の受入れ状況

※R5 高知県アマチュアスポーツ合宿支援事業助成金交付団体の実績



都府県別

合宿団体所在地	合宿団体数	合宿団体所在地	合宿団体数	合宿団体所在地	合宿団体数
大阪	27	徳島	3	北海道	1
兵庫	16	広島	3	山形	1
京都	15	鳥取	3	青森	1
東京	12	滋賀	3	石川	1
愛媛	9	奈良	2	富山	1
岡山	7	島根	2	福井	1
香川	4	大分	2	茨城	1
愛知	4	新潟	2	千葉	1
				佐賀	1

競技別団体数

競技	回数	競技	回数
野球	39	ハンドボール	1
サッカー	28	よさこい	1
陸上	11		
バスケットボール	9		
バレーボール	8		
カヌー	6		
ソフトボール	4		
テニス	4		
水泳	2		
バドミントン	2		
卓球	2		
フットサル	2		
ゴルフ	2		
自転車	1		
ダンス	1		

■スポーツを通じた国際交流

【現状・課題】

- 東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019のレガシーを今後のスポーツ振興やスポーツの国際交流の活性化につなげる必要がある。

■交流実績及び連携協定の締結状況

※下線は連携協定を締結した交流

- シンガポール
 - ①スポーツシンガポール－高知県バドミントン協会
 - ②シンガポールスポーツスクール－高知県教育委員会
- チェコ共和国
 - ①チェコオリンピック委員会－須崎市／高知県カヌー協会
 - ②チェコカヌー連盟－高知県カヌー協会
 - ③チェコソフトボール協会－高知県ソフトボール協会
- オランダ
 - ①オランダ自転車関係者－宿毛市
 - ②オランダサッカー関係者－高知県サッカー協会
- オーストラリア
 - ①ソフトボールクイーンズランド－高知県ソフトボール協会／嶺北高校
- トンガ王国
 - ①トンガコミュニティ関係者－高知県ラグビーフットボール協会
- ハンガリー
 - ①ハンガリー関係者－土佐町／本山町／須崎市／嶺北高校

■スポーツにおけるデジタル技術の活用

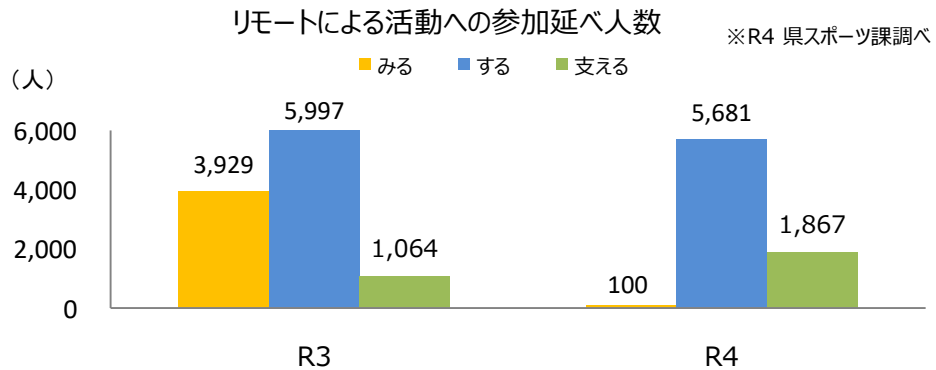
【現状・課題】

- 県立スポーツ施設や地域の拠点施設など16施設にリモート機器を配置し、活用数は増加傾向にあるが、活用状況に偏りがみられるとともに、より効果的に活用するための手立てが必要。
- 高知県のスポーツ関連サイトの利用者数が少ない。
- スポーツ教室の実施などにデジタル技術の活用が求められている。

○リモートによるスポーツ活動状況

※主な活用事例

・スポーツ大会の動画配信 ・遠隔地をリモートでつないだスポーツ教室 ・SSCによるスポーツ医科学の研修



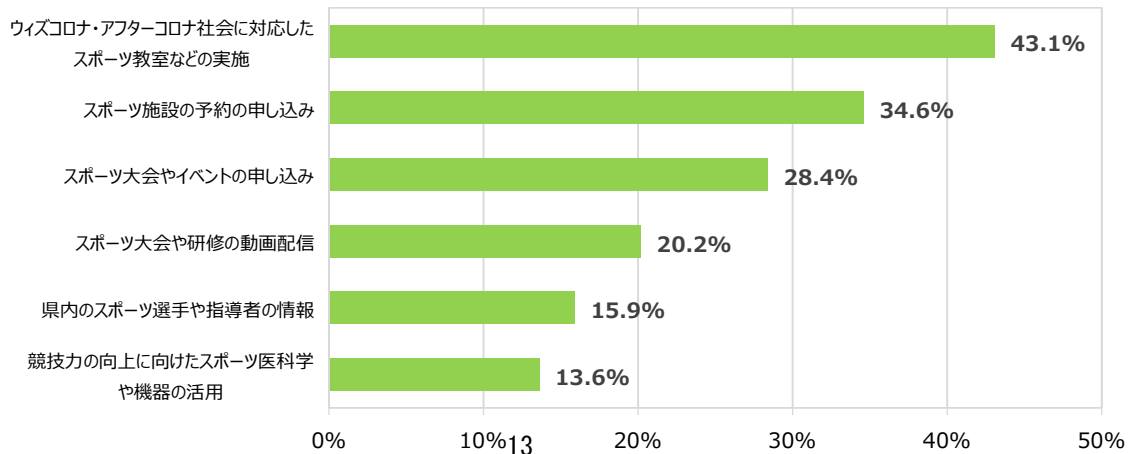
○スポーツ情報サイトの運用状況

※R5 県スポーツ課調べ

サイト名	主な機能	利用状況
スポーツNAVI (R1～)	イベントや教室、施設の検索	イベント等の更新件数:356／年 ページビュー数 :78,694／年
スポる！KOCHI (R4.12月～)	スポーツツーリズム関連の情報発信	152,536セッション／年 (R5.4.1～R6.3.31)

○デジタル化したら良いと思うスポーツの取り組み

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



第3章

計画の基本方針

第3章 計画の基本方針

1. 第3期高知県スポーツ推進計画が目指すもの

「第2期高知県スポーツ推進計画」においては、「スポーツ参加の拡大」、「競技力の向上」、「スポーツを通じた活力ある県づくり」の3本の柱を掲げるとともに、3本の柱に横断的に関わる施策の方向性として「オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興」を示し、様々な取り組みを進めてきました。

その結果、本県のスポーツの現状は、子どもの運動習慣や体力は全国平均と同程度に改善されてきましたが、子ども達がスポーツを続けられる環境はまだ十分ではありません。一方、成人のスポーツ実施率は増加傾向にありますが、全国と比較するとまだ低く、年代や地域によって差がみられます。

また、障害者スポーツに関しては、身近な地域でスポーツに親しむ環境が十分でないことや、競技者として全国や世界を目指す活動は少ない状況がみられます。

他方、競技スポーツにおいては、全国や世界の舞台で活躍する選手が育ってきていますが、その競技は限定的で全体的な底上げが必要です。

さらに、スポーツによる県外からの来客数については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、令和2年から激減しています。

加えて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を通じて得られた、県民のスポーツへの関心の高まりやホストタウン国などとのつながりといったレガシーを今後の本県のスポーツ振興につなげていくことが求められています。

こうした現状を踏まえるとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル技術の革新によるライフスタイルの変化などの社会環境の変化にも対応するため、持続可能なスポーツ環境づくりを産学官民が強く連携して取り組みを進めていく必要があります。

特に、子どものスポーツ環境は、生涯にわたるスポーツ参加や競技力の向上、健康づくりなどの土台となるものであり、大変重要と考えます。また、障害者のスポーツ環境づくりは、誰もがスポーツに安心して親しむことができることにつながるものです。こうした全ての県民のスポーツ活動の基盤となるスポーツ環境づくりに重点的に対応していくことが必要と考えます。

このような環境づくりに加えて、全ての県民が多様なスタイルでスポーツに親しむことができるようにするためには、安心・安全にスポーツに触れる機会やスポーツを通して多くの方が交流する機会を増やすことで、スポーツを楽しみと感じ、自ら進んで参加する人が増えることが重要です。

こうしたことから、「第3期高知県スポーツ推進計画」では、誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境をつくるとともに、青少年の健全育成や女性のスポーツ参加促進、共生社会の実現、生きがいづくりや健康づくり、地域間・世代間などの様々な交流の促進など、スポーツを通じて全ての県民や県内全ての地域を元気にする取り組みを進め、スポーツの楽しさや感動を共有し、希望と活力ある社会の実現を目指します。

さらに、スポーツを通して多くの分野の施策推進にもつなげることを見据え、県が示す各種計画と関連付けた取り組みを推進するとともに、スポーツを通じて持続可能な世界の実現を目指すための国際目標であるSDGs(*)の達成にも貢献していきます。

本計画では、競技としてルールに則り活動する陸上競技や球技、武道等だけではなく、体操、ダンス、レクリエーションとして行われる身体活動、軽度の運動も含めて「スポーツ」と称しています。また、具体的な施策の記述に当たっては、例えば、幼児期における外遊び・運動や、壮年期・老年期における運動習慣の確立などについては、よりイメージしやすいよう、「遊び」や「運動」といった言葉を用いています。

(*)SDGs:持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)

2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標で17のゴールと169のターゲットで構成されている。

2. 目指す姿・基本理念・取り組み目標

<目指す姿と計画の基本理念>

目指す姿

スポーツの楽しさや感動を共有し 希望と活力ある社会の実現

スポーツにおける多様な楽しみ方や多分野と融合したスポーツ活動の増加を図り、スポーツが県内の全ての地域において県民の日常生活に浸透し、個人個人がスポーツを楽しむだけでなく、スポーツの楽しさやスポーツを通じて得られる感動を仲間や地域で共有することで、将来にわたって希望と活力ある社会の実現を目指します。

計画の基本理念

(1)誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境づくりを推進する

県内すべての地域において、年齢、性別、障害の有無等に関わらず、誰もがスポーツによって「楽しさ」や「感動」を得られるよう、身近な地域で安心・安全に多様なスタイルでスポーツに親しむことができるとともに、競技者や指導者が全国や世界を目指すことができる環境づくりを進めます。

(2)スポーツを通じて全ての県民や地域を元気にする

楽しさや感動が得られる多様なスポーツ活動を通じて、青少年の健全育成や共生社会の実現、生きがいづくりや健康づくり、地域間・世代間などの様々な交流の促進による地域の活性化など幅広い分野にスポーツの効果をつなげることを目指して、県民や地域を元気にする取り組みを進めます。

＜取り組み目標＞

目指す姿と計画の基本理念に基づき、以下の3本柱の取り組み目標とこれらに横断的に関わる施策を定め、取り組みを推進します。

施策の柱① スポーツ参加の拡大

運動やスポーツが好きな子どもを増やす 全ての地域で多様なスポーツ参加を拡大する

- | 主な目標 | |
|-------------------|------------|
| ●運動が好きな子どもの割合 | R4から5ポイント増 |
| ●成人の週1回以上のスポーツ実施率 | 65% |
| ●障害者が活動できるチームや団体数 | 37 |

将来を見据え、運動やスポーツが好きな子どもを増やすとともに、県民の誰もが身近な地域で安心・安全にスポーツに親しむことができる機会の拡充を図り、「みる」「する」「ささえる」といった多様なスタイルで日常的にスポーツに参加する人口の増加を目指します。

施策の柱② 競技力の向上

全国や世界で活躍する選手を多数輩出する

- | 主な目標 | |
|----------------------|------|
| ●全国入賞や国際大会に出場する選手・団体 | 200 |
| ●全国や世界を目指す障害者アスリート数 | 220人 |

有望選手の発掘や系統的・組織的な育成・強化のさらなる充実を図り、全国トップレベルの選手を数多く育成するとともに、オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界トップレベルの大会に出場するなど、日本を代表する選手やそうした選手を支える指導者等を本県から多数輩出することを目指します。

施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり

スポーツを通じて地域や経済を活性化する

- | 主な目標 | |
|-------------------|------|
| ●スポーツによる県外からの入込客数 | 12万人 |

スポーツツーリズムの推進やスポーツ国際交流地域におけるスポーツサービスの提供を通じて、交流人口の拡大やスポーツによる県外からの誘客の増加を図り、健康づくり、まちづくり、雇用の創出など、地域や経済の活性化につなげます。

3本の柱に横断的に関わる施策

デジタル技術の活用 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル技術の革新によるライフスタイルの変化などの社会環境の変化に対応し、持続可能なスポーツ環境づくりを産学官民が連携して取り組みます。

第4章

具体的な施策

第4章 具体的な施策

1. スポーツ参加の拡大

目 標	運動が好きな子どもの割合 R4から5ポイント増 成人の週1回以上のスポーツ実施率 65% 障害者が活動できるチームや団体数 37
--------	--

(1) 身近な地域でスポーツに親しめる場の拡充

【施策目標】

地域の実情に応じた子どものスポーツ環境づくりや多様な種目を体験できるスポーツ機会の提供、学校の体育授業の充実などにより、運動やスポーツが好きな子どもを増やします。

また、住民主体のスポーツ活動の推進や女性のスポーツ活動の促進、オリンピック・パラリンピックなどで注目された新たなスポーツの普及など、身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりを行うことにより、地域ごとのスポーツ参加の拡大を図ります。

<現状・課題>

- 運動やスポーツが好きな子どもの割合は、小学校では男女とも全国より低く、中学校では男女とも全国より高い。また、小・中学校ともに男子よりも女子の割合が低い。(R6)
- 小・中学校男女ともに体力合計点が全国平均を上回っている。全国順位は、小学校男子が25位、小学校女子が20位、中学校男子が23位、中学校女子が21位となっている。(R6)
- 1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合は、男子よりも女子が高い。また、小学校は男女ともに全国より低く、中学校は男女ともに全国より高い。
- スポーツ少年団の団数が減少しており、地域によっては子どもがスポーツできる場が少ない地域がある。
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較するとまだ低く、性別や年代、地域によって差がみられる。
- スポーツ観戦に関心がある者の割合は74.8%となっており、前回調査から増加している。

〔具体的施策〕

①子どものスポーツ環境づくりの推進

○ 県は、子どもたちが身近な地域で希望するスポーツを続けられるようにするため、新たなスポーツサークルの立ち上げや運動部活動の地域展開など、地域・学校の実情に応じた子どものスポーツ環境づくりを進めます。

また、子どものスポーツ機会の拡充に向けて、高知県スポーツコミッション等と連携し、市町村の取り組みを支援するとともに広域で連携する取り組みを行います。

さらに、オリンピック・パラリンピックやデフリンピック等のスポーツ機運の高まりを好機と捉え、子どもを対象とした新たなスポーツ大会の開催支援や障害の有無に関わらず誰もが参加できるスポーツ体験ができる機会の拡充を図ります。

- 【指標】 ・子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村の数 R4：9→R9：34
・広域で連携した取組が展開できているエリアの数 R4：0→R9：6

②子どもが楽しくスポーツができる機会の拡充

○ 県は、スポーツの楽しさを知り、スポーツに親しむ子どもを増やすため、親子で楽しむ運動プログラムや自分の運動特性を知ることができる体力測定、多様な種目を体験できるプログラムを県内各地で提供するとともに、オリンピックやパラリンピアン、プロ選手などによる講演やスポーツ教室を実施します。

○ 県は、子どものスポーツ機会を増やし、スポーツに対する意欲を高めるため、高知県スポーツ協会が行うスポーツ少年団の交流大会の充実を図る取り組みを支援します。

○ 県教育委員会は、子どもの体力・運動能力の向上及び運動習慣の形成を図るため、学校の体育授業の充実に取り組みます。

- 【指標】 ・マッチングプログラムの参加者数 R4：1,420人→R9：R5から前年度比10%増の累計9,500人
・子どもの体力・運動習慣の向上 小中学生の男女とも全国平均を上回る

③地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進

- 県は、中山間地域における住民の健康づくりや生きがいづくりに向けて、ニーズ等に応じた住民主体のスポーツ活動が広がるようにするため、高知県スポーツ協会と連携し、総合型地域スポーツクラブにおけるリモート機器を活用したスポーツ活動を支援します。あわせて、スポーツ推進委員による多世代参加型のイベント等の普及・充実に取り組みを推進します。
- 県は、スポーツの多様な楽しみ方の普及やスポーツを通じた生きがいづくり、仲間づくりを推進するため、高知県レクリエーション協会等と連携し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に楽しむことができるレクリエーション大会などのスポーツイベントを開催します。
- 県は、団体が行うスポーツによる交流の場である「ろうれんピック」や「こうちシニアスポーツ交流大会」の開催支援、「ねんりんピック」への参加に対する支援を通じて、高齢者の健康と生きがいづくりを推進します。

【指標】 ・ 各地域のスポーツ実施率

R3と比較してR9に全ての地域でスポーツ実施率が向上する

④女性のスポーツ活動の促進

- 県は、女性のスポーツ参加の拡大を図るため、有識者やスポーツ団体関係者等で構成する女性のスポーツ推進を検討する場を通じて効果的な取り組みを進めます。
また、女性特有のスポーツ傷害予防のためのスポーツ医科学面からのサポートや情報提供などを行います。

【指標】 ・ 女性の週1回以上のスポーツ実施率

R3:49.9%→R9:65%

⑤スポーツ情報の発信強化

- 県は、より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト(スポーツNAVI)と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト(スポるKOCHI)を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・ 「スポーツNAVI」のページビュー数 R4:72,619→R9:11万

・ 「スポるKOCHI」のセッション数 毎年7.3万セッション以上

※ページビュー数:Webサイト内のページを閲覧した回数

※セッション数:ユーザーがWebサイトに入ってから離脱した流れを「1」とカウント

⑥新たなスポーツの推進

- 県は、多様なスポーツに親しむことができるようにするため、オリンピック・パラリンピック競技大会等で注目が高まっているダンスやBMX、スケードボード等の都市型スポーツやサーフィンなどのマリンスポーツ等を普及・強化する取組を支援します。
- 県は、連携協定を締結しているPERF株式会社や高知県スポーツコミッションと連携し、ダンスを通じて、子どもや若者、障害者が生き生きと輝ける地域づくりを進めます。

⑦スポーツ施設の整備

- 県は、誰もが身近な地域において気軽にスポーツに親しむことができるようにするため、利用者が安心・安全に活動できるよう県立スポーツ施設の適切な維持・管理を推進します。
- 県は、多様なスポーツ活動や多分野の活動ができる場を提供するため、県立県民体育館の再整備を行うとともに、県内スポーツの実情やニーズに応じて、県立スポーツ施設の整備や有効活用を計画的に行います。また、市町村が行う広域のスポーツ振興に効果をもたらす施設整備を支援します。
加えて、県教育委員会と連携し、学校体育施設の有効活用を進めます。

(2)担い手の育成及び活動の活性化

【施策目標】

スポーツ指導者の育成やスポーツ指導者をマッチングする体制づくり、スポーツボランティアの育成、若者のスポーツ参加の拡大を図ることなどにより、地域地域でスポーツを支援する人材の育成・確保を進めます。

<現状・課題>

- スポーツを支える有資格者は増加傾向にあるが、さらに増やす必要がある。
- 市町村におけるスポーツ活動を支えているスポーツ推進委員は比較的年齢層が高く、人材の確保が懸念されている。
- スポーツのボランティア活動については、「すでに行っている」者の割合は2.2%と低く、「あまり行いたくない」、「行うつもりはない」といった否定的な意見の割合が6割を超えている。

〔具体的施策〕

①指導者育成及びマッチング

- 県は、スポーツ現場における指導者の確保及び指導力の向上を図るため、高知県スポーツ協会等が取り組む指導者資格の取得及び更新のための講習会の実施を支援するとともに、高知県スポーツコミッション等と連携し、地域における新たな指導者の掘り起こしに組み込みます。
また、県教育委員会や高知県スポーツ協会、高知県スポーツコミッションなどの関係機関・団体と連携し、指導者のマッチングや研修を行う仕組みの構築及び運用を行います。

【指標】 ・ 有資格指導者の数 R9:R4から10%増

②スポーツ推進委員の活動の活性化

- 県は、スポーツ推進委員が地域スポーツの企画・調整役としてより活発に活動できるよう、スポーツ推進委員研修会の実施やスポーツ推進委員が地域のスポーツイベントなどをコーディネートする取り組みを支援します。

③スポーツボランティアの育成

- 県は、誰もが安心してスポーツに参加できる環境づくりに向けて、地域におけるスポーツボランティアの増加を図るため、スポーツイベントにおけるボランティアの核となる人材の確保・育成に取り組めます。

【指標】 ・ 育成したボランティアリーダーの数 R4: 0人→R9:50人

④大学等と連携した若者のスポーツ参加の拡大

- 県は、将来の担い手確保を見据え、スポーツに関わる若者を増やすため、大学やスポーツ団体等と連携し、高校生や大学生がスポーツについて意見を交わす高知県スポーツサミット等を通して、スポーツイベント等の企画・運営への若者の参加促進を図ります。

【指標】 ・ スポーツサミットを通して若者から提言された取組の数
R4: 0 → R9:10

(3) 障害者がスポーツに親しめる環境づくり

【施策目標】

障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりや、障害者のスポーツ活動を支援する体制の整備、障害者のスポーツ大会の誘致などにより、障害者のスポーツ参加の拡大を図ります。

<現状・課題>

- 障害者がスポーツ活動ができる場が少なく、高知市周辺に集中している。
- 競技選手として活動している人数(中央競技団体への登録者数)は新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた時期から増加の兆しが見られるものの、まだ少ない。
- 障害者のスポーツ活動を支えるパラスポーツ指導員数はまだ少ない。
- 障害者スポーツへの関心は、「関心がある」と「やや関心がある」割合が47.9%でまだ高いとは言えない。

〔具体的施策〕

①身近な地域におけるスポーツ機会の拡充

- 県は、障害者が身近な地域で安心してスポーツに参加できるようにするため、市町村が行う障害者のスポーツ環境づくりを支援するとともに、学校や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、既存のスポーツ活動への障害者の受け入れを進めます。

また、パラリンピックやデフリンピック等のスポーツ機運の高まりを好機と捉え、障害者と健常者が一緒に参加できるインクルーシブなスポーツイベントのほかパラリンピアンなどによる講演やスポーツ教室を実施します。

さらに、県立スポーツ施設等に障害者スポーツ用具を配置し、市町村やスポーツ団体等の依頼に応じて貸し出す取り組みを進めます。

- 県は、公共交通事業者や市町村が行う、バリアフリー化に向けた取り組みを支援します。

【指標】 ・ 障害者がスポーツ活動をすることができる団体数 R4:27→R9:37

②障害者スポーツの活動支援

- 県は、障害者の多様なスポーツ参加を拡充するため、高知県社会福祉協議会等と連携し、障害者スポーツセンターを核とした地域のスポーツ活動と障害当事者とのマッチングの実施、サポートする人材の育成を行います。また、障害者スポーツの情報の活用強化や障害者スポーツの理解啓発の取り組みを行います。

【指標】 ・ 障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができているエリアの数 R4:1→R9:6

③全国や世界を目指す選手の育成

- 県は、全国や世界を目指して活動する選手を増やすため、優秀な実績を有する選手や全国大会を目指して活動する選手を支援するとともに、将来の有望選手を発掘し育成する取り組みを行います。

【指標】 ・ 中央競技団体への登録者 R4:192人→R9:220人
・ 発掘の取組により中央競技団体に登録した選手数 R4:0人→R9:25人

④障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実

- 県は、障害者のスポーツ活動において、競技の普及や選手の登録・育成・強化、大会の運営などが組織的に展開され、障害者がより安心・安全に継続してスポーツに取り組むことができるようにするため、県立障害者スポーツセンターの機能を強化するとともに、関係機関・団体と連携して障害者スポーツを支援する体制の充実を図ります。

⑤障害者のスポーツ大会誘致

- 県は、障害者のスポーツ参加の機運や県民の障害者スポーツへの関心を高めるため、全国規模の障害者スポーツ大会やイベントなどの誘致を進めます。

【指標】 ・ 誘致した大会数 R4: 1 → R9: 5 (R5からの累積数)

(4)スポーツにおける安心・安全の確保

【施策目標】

子どもに関わるスポーツ指導者の指導力の向上やスポーツにおける事故・怪我を防止するための研修の拡充、スポーツ団体の適切なガバナンスの推進などにより、安心・安全にスポーツに親しむことができる環境づくりを進めます。

<現状・課題>

- スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人が求められている。
- ガバナンスコードの遵守に具体的に取り組んでいる団体はまだ少ない。

〔具体的施策〕

①子どもの発達段階等に応じたスポーツ指導の推進

- 県は、子どもがスポーツを好きになり、楽しくスポーツを続けられるようにするため、高知県スポーツコミッション等と連携し、子どものスポーツ指導にあたる地域の指導者や教員、大学生などを対象に、子どものやる気を引き出す指導の在り方等について学ぶ機会を提供します。

②スポーツ団体における適切なガバナンスの推進

- 県は、スポーツ団体において適切な組織運営が行われるようにするため、高知県スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体と連携し、競技団体やスポーツ少年団などスポーツ団体における適切なガバナンスに基づく活動を推進します。

③スポーツにおける傷害・事故の防止

- 県は、多様なスポーツ実践において、傷害や事故をなくすため、スポーツによる傷害や事故に関する研修会等を実施します。

【指標】 ・ 研修会の参加者数 毎年200人以上

(5) デジタル技術の活用

【施策目標】

中山間地域などにおけるリモート機器を活用したスポーツ活動の推進や高知県スポーツ科学センターにおけるリモートによる研修の実施、スポーツ情報サイトによる情報発信の強化などにより、スポーツにおけるデジタル技術のさらなる活用を推進します。

<現状・課題>

- 県立スポーツ施設や地域の拠点施設など16施設にリモート機器を配置し、活用数は増加傾向にあるが、活用状況に偏りがみられるとともに、より効果的に活用するための手立てが必要。
- 高知県のスポーツ関連サイトの利用者数は着実に増加しているが、より多くの方に利用していただくための手立てが必要。

〔具体的施策〕

① リモートやVR・AR等を活用したスポーツ活動の推進

- 県は、中山間地域におけるスポーツ参加の拡大や広域で連携する取り組みが広がるよう、総合型地域スポーツクラブ等がリモート機器を活用する取り組みを支援するとともに、大学等と連携しリモートによるスポーツ指導や研修を実施します。
また、高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医科学研修やトレーニング指導等の充実を図ります。
- 県は、スポーツへの関心を高め、幅広い世代のスポーツ参加の拡大や生きがいづくりにつなげるため、VRやAR等を活用したスポーツに親しむことができる機会を提供します。

【指標】 ・ リモートによる活動への参加者数 R4: 7, 648人 → R9: 10, 840人

② スポーツ情報の発信強化【再掲】

- 県は、より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト(スポーツNAVI)と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト(スポるKOCHI)を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・ 「スポーツNAVI」のページビュー数 R4: 72, 619 → R9: 11万
・ 「スポるKOCHI」のセッション数 毎年7.3万セッション以上

※ページビュー数: Webサイト内のページを閲覧した回数

※セッション数: ユーザーがWebサイトに入ってから離脱した流れを「1」とカウント

(6) スポーツを通じた健康増進や生きがいづくり

【施策目標】

高知家健康パスポートを活用した取り組みや中山間地域などにおける住民主体のスポーツ機会の拡充を図ることにより、スポーツを通じた健康づくりや生きがいづくりを推進します。

<現状・課題>

- 男女とも歩数が少なく、全国平均を下回っている
- 健康パスポートアプリのダウンロード件数は順調に増加しているが、女性に対して男性の件数が少ない
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較するとまだ低く、性別や年代、地域によって差がみられる。

〔具体的施策〕

①高知家健康パスポートを活用したスポーツ参加機会の拡充

- 県は、高知家健康パスポート事業の啓発を行い、総合型地域スポーツクラブの活動拠点である運動施設の利用やスポーツイベントへの参加等による健康づくりの推進に取り組みます。また、手軽な運動として、引き続きウォーキングの普及に取り組みます。
- 県は、住民の運動習慣定着への機会の拡大を図るため、市町村や事業所との連携を強化し、高知家健康パスポート事業を活用した運動イベントの実施を促進します。
- 県は、健康づくりにおける運動の効果や重要性について、「健康づくりひとくちメモ」等、マスメディアを活用した啓発を行います。

【指標】・健康パスポートアプリDL件数（男性） R5:17,169件→R9:20,000件

②地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進（再掲）

- 県は、中山間地域における住民の健康づくりや生きがいづくりに向けて、ニーズ等に応じた住民主体のスポーツ活動が広がるようにするため、高知県スポーツ協会と連携し、総合型地域スポーツクラブにおけるリモート機器を活用したスポーツ活動を支援します。あわせて、スポーツ推進委員による多世代参加型のイベント等の普及・充実を図る取り組みを推進します。
- 県は、スポーツの多様な楽しみ方の普及やスポーツを通じた生きがいづくり、仲間づくりを図るため、高知県レクリエーション協会等と連携し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に楽しむことができるレクリエーション大会などのスポーツイベントを開催します。
- 県は、団体が行うスポーツによる交流の場である「ろうれんピック」や「こうちシニアスポーツ交流大会」の開催支援、「ねんりんピック」への参加に対する支援を通じて、高齢者の健康と生きがいづくりの推進を図ります。

【指標】・各地域のスポーツ実施率
R3と比較してR9に全ての地域でスポーツ実施率が向上する

（7）産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

【施策目標】

地域のスポーツ環境を多様な主体が連携して対応する体制づくりや機会の充実、企業による県内スポーツを支援する取り組みにより、持続可能で効果的なスポーツの推進を目指します。

＜現状・課題＞

- 市町村でのスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性は感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。
- スポーツ団体や民間企業、大学、行政などが定期的に意見交換を行ったり、スポーツの課題解決のために協議する場は少ない。

〔具体的施策〕

①地域において 関係者が連携する体制づくり

- 県は、地域におけるスポーツに関する課題に対して継続した取り組みが進められるようにするため、市町村における子どものスポーツ環境づくりを推進する体制づくりや、子どものスポーツ機会の拡充に向けて広域で連携する体制づくりを進めます。

【指標】・子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制がある市町村数 R4:9→R9:34
・広域で連携した取組が展開できているエリアの数 R4:0→R9:6

②多様な主体のネットワークづくり

- 県は、多様化するスポーツのニーズを捉えた新たな取り組みを促進するため、スポーツを推進する多様な主体が集い、意見交換や情報共有する場の充実を図ります。
- 県は、スポーツに関する連携協定を締結している機関や事業者、団体等との連携を強化し、本県のスポーツ振興や教育の振興などにつなげる取り組みのさらなる充実を図ります。

※連携協定の締結実績

- ・パナソニック株式会社スポーツマネジメント推進室(現:パナソニックスポーツ株式会社)
- ・大阪体育大学 ・株式会社阪神タイガース ・PERF株式会社
- ・高知リハビリテーション専門職大学

【指標】 ・ 多様な主体の意見交換や情報共有する場への参加団体数が増加する
(R4: 0→R9:10)
・ 連携協定による活動数が増加している (R4と比較して20%増加)

③企業が県内スポーツを支援する体制づくり

- 県は、県内のスポーツ活動の充実を図るため、企業による子どものスポーツ活動機会の拡充や競技力向上を目的とした取組を促進します。

2. 競技力の向上

目	全国入賞や国際大会に出場する選手・団体 200
標	全国や世界を目指す障害者アスリート数 220人

(1) 全国や世界を目指す選手の育成

【施策目標】

競技団体における計画的・組織的な選手の育成・強化の推進や有望選手の発掘・育成、スポーツ医科学サポートの充実、競技者や指導者と企業とのマッチングなどにより、全国や世界で活躍する選手を一人でも多く輩出します。

＜現状・課題＞

- 全国や世界の舞台で優秀な成績を収めている選手は育ってきており、国民スポーツ大会では入賞数が増加し総合順位は着実に上がってきているが、安定して上位をねらうことができる競技がまだ限定的で、競技力の全体的な底上げが必要。
- 子どもの総数に対する子どもの競技人口の割合は少し増加しているが、次代を担う子どもの競技人口の数、割合ともに増やすことが必要。
- スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体は増えてきているものの、まだ活用していない競技団体がみられる。
- 県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取り組みが県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。

〔具体的施策〕

①競技団体における組織的な選手育成の推進

- 県は、質の高い選手育成の取り組みが継続的に進められるよう、高知県スポーツ協会と連携し、競技団体におけるPDCAによる計画的・組織的に選手を育成・強化する取り組みを進めます。
あわせて、全高知チームによる重点強化の実施や特別強化選手を指定した有望選手の活動のさらなる充実を図ります。

②全国大会を目指す中学生・高校生の選手育成の推進

- 県及び県教育委員会は、全国大会等で入賞する中・高校生の増加を図るため、高知県中学校体育連盟を通じた中学生の選手育成活動や、競技団体における高校生の選手強化及び有望な高等学校運動部の活動のさらなる充実を図ります。

【指標】・全国中学校体育大会(全中)及び全国高等学校総合体育大会(IH)の入賞競技数
＜全中＞R4:7→R9:9 ＜IH＞R4:10→R9:15

③競技力向上に向けたスポーツ医科学の活用

- 県は、競技団体等において科学的な根拠に基づく効果的なトレーニングや練習等が行われるように支援するとともに、スポーツ傷害の予防・軽減につなげるため、高知県スポーツ科学センターによるスポーツ医科学面から選手や指導者等をサポートする取り組みを推進します。

また、競技団体などにおいてスポーツ医科学の活用がさらに進むよう、高知県スポーツ科学センターの体制強化や環境の充実を図り、各競技団体を計画段階からサポートする取り組みを実施するとともに、スタッフがスポーツ活動の現場に出向いて指導・助言するサポートや学校の部活動等で活用できるトレーニングメニューの提供などを行います。さらに、メディカルチェックや科学的な根拠に基づいたトレーニングの重要性などについて、選手や指導者への理解啓発の取り組みを進めます。

- 県は、全国や世界を目指して競技力の向上に取り組む障害者へのスポーツ医科学面からのサポートの充実に取り組みます。

【指標】・スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数
R4:20→R9:30

④有望なジュニア選手を発掘・育成する取組の推進

- 県は、有望選手を発掘し、個々の適性に応じた競技選択の幅を広げ、全国や世界で活躍する選手の輩出につなげるため、小学生を対象とした有望選手を発掘し、運動能力やスポーツに対する意識を高めるプログラムを提供する取り組みを実施します。

また、全国や世界を目指す障害者スポーツの有望選手を発掘・育成する取り組みを進めます。

【指標】・高知くろしおキッズに応募する子どもの数 R4:145人→R9:200人
・障害者スポーツの発掘事業で選抜した選手数 R4:0人→R9:25人

⑤選手や指導者の県内への受け入れ促進

- 県は、優秀な選手や指導者が県内で継続して活動できるようにするため、県内企業やスポーツ団体等と連携し、「高知県アスリートキャリア支援センター」の効果的な運用を通じて、選手や指導者と企業等とのマッチングに取り組みます。

⑥新たなスポーツの推進

- 県は、多様なスポーツにおいて全国トップレベルを目指すことができるようにするため、オリンピック・パラリンピック競技大会等で注目が高まっているダンスやBMX、スケードボード等の都市型スポーツやサーフィンなどのマリンスポーツ等を普及・強化する取組を支援します。

⑦競技拠点施設の計画的な整備

- 県は、各競技において計画的かつ質の高い育成・強化活動が進められるよう、競技の拠点となる県立県民体育館の再整備を行うとともに、県内スポーツの実情やニーズに応じて、県立スポーツ施設の整備や有効活用を計画的に行います。また、市町村が行う広域のスポーツ振興に効果をもたらす施設整備を支援します。

(2)担い手の育成及び活動の活性化

【施策目標】

スポーツ指導者の育成やスポーツ指導者をマッチングする体制づくり、トップコーチから学ぶ機会の提供やスポーツ医科学研修の実施などにより、競技力向上に携わるスポーツ指導者の増加や指導力の向上を図ります。

<現状・課題>

- 日本スポーツ協会公認の有資格指導者は増加傾向にあるが、より質の高い指導が行われるよう有資格者を増やすことが必要。
- 障害者のスポーツ活動を支援するパラスポーツ指導員は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたが、増加傾向にある。
- スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人が求められている。

〔具体的施策〕

①指導者育成及びマッチング〔再掲〕

- 県は、スポーツ現場における指導者の確保及び指導力の向上を図るため、高知県スポーツ協会等が取り組む指導者資格の取得及び更新のための講習会の実施を支援するとともに、高知県スポーツコミッション等と連携し、地域における新たな指導者の掘り起こしに取り組みます。

また、県教育委員会や高知県スポーツ協会、高知県スポーツコミッションなどの関係機関・団体と連携し、指導者のマッチングや研修を行う仕組みの構築及び運用を行います。

【指標】・有資格指導者の数 R9:R4から10%増

②競技力向上に向けた県内指導者の資質向上

- 県は、県内指導者の指導力を高めるため、全高知チームにおいてトップコーチから学ぶ実践研修を推進するとともに、高知県スポーツ科学センターによるスポーツ医科学研修を実施します。

【指標】・全ての全高知チームにおいて実践研修が行われている
・高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 毎年200人以上

(3) デジタル技術の活用

【施策目標】

各種スポーツ大会の動画の配信や大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修、高知県スポーツ科学センターにおけるリモートによる研修やトレーニング指導などにより、スポーツにおけるデジタル技術のさらなる活用を推進します。

<現状・課題>

- 競技団体における、競技力向上につながるデジタル技術の活用事例は少ない。
- スポーツ教室の実施などにデジタル技術の活用が求められている。

〔具体的施策〕

①選手の育成につながるリモートの効果的な活用

- 県は、変化する社会環境や地理的ハンディがある地域においても効果的な指導等を行うことができるよう、各種スポーツ大会の動画の配信や大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修を実施します。

また、高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医科学研修やトレーニング指導等を推進します。

【指標】 ・ リモートによる活動への参加者数 R4:7,648人→R9:10,840人

②選手の育成におけるデジタル技術の活用

- 県は、競技力向上に向けた練習の質的向上を図るため、競技団体において技術や戦術の向上につながるデジタル機器の活用を促進するとともに、高知県スポーツ科学センターにおけるデジタル機器のさらなる活用を進めます。

(4) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

【施策目標】

高知県スポーツ科学センターと関係団体との連携強化や地域のスポーツ環境を多様な主体が連携して対応する体制づくりや機会の充実、競技者や指導者と企業とのマッチングを行う仕組みづくりの推進により、競技力の向上につながる持続可能で効果的な支援体制の構築・運用を進めます。

<現状・課題>

- 高知県スポーツ科学センターが協力を得られている関係者は限定的。
- 県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取組が県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。
- 全国や世界を目指して競技活動を行う障害者を支援する体制が十分でない。
- スポーツ団体や民間企業、大学、行政などが定期的に意見交換を行ったり、スポーツの課題解決のために協議する場は少ない。

〔具体的施策〕

①スポーツ医科学面からの支援体制の強化

- 県は、利用者のニーズに応えられるスポーツ医科学面からのサポートを行うことができるよう、高知県スポーツ科学センターと関係団体との連携・協力体制の充実を図ります。

【指標】 ・ 高知県スポーツ科学センターと連携する外部スタッフ数 R4:21人→R9:35人

②障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実(再掲)

- 県は、障害者のスポーツ活動において、競技の普及や選手の登録・育成・強化、大会の運営などが組織的に展開され、障害者がより安心・安全に継続してスポーツに取り組むことができるようにするため、県立障害者スポーツセンターの機能を強化するとともに、関係機関・団体と連携して障害者スポーツを支援する体制の充実を図ります。

③選手や指導者の県内への受け入れ促進(再掲)

- 県は、優秀な選手や指導者が県内で継続して活動できるようにするため、県内企業やスポーツ団体等と連携し、「高知県アスリートキャリア支援センター」の効果的な運用を通じて、選手や指導者と企業等とのマッチングに取り組みます。

3. スポーツを通じた活力ある県づくり

目
標

スポーツによる県外からの入込客数 **12万人**

(1) スポーツを通じた地域活性化・まちづくり

【施策目標】

プロやアマチュアスポーツのキャンプ・合宿・大会の誘致、地域の特色を活かしたスポーツツーリズムの推進、地元プロチームの活動の充実などに取り組むとともに、県内各地のスポーツ情報の発信を強化し、スポーツの振興及びスポーツを通じた交流人口の拡大につなげます。

<現状・課題>

- 新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいたスポーツによる県外からの入込客数は回復傾向がみられる。
- アマチュアスポーツ合宿は関西圏からの来県が中心となっている。また、一部の競技に集中しているとともに、県内で受け入れる地域が限定的である。

〔具体的施策〕

①プロ・アマチュアスポーツの誘致

- 県は、スポーツを「みる」ことにより得られる楽しさや感動などを通して、県民のスポーツに対する機運醸成を図るとともに、地域・経済の活性化につなげるため、高知県観光コンベンション協会等と連携し、プロスポーツのキャンプやアマチュアスポーツ合宿、大会の誘致に取り組みます。

【指標】 ・ プロスポーツ・トップチームの誘致による県外からの入込客数

R4: 32,662人 → R9: 8万人

・ アマチュアスポーツの誘致による県外からの入込客数

R4: 3,926人 → R9: 1万

②地域の特色を活かしたスポーツツーリズムの推進

- 県は、サイクリングやサーフィンなど地域の特色を活かしたスポーツツーリズムを推進し、地域・経済の活性化につなげるため、市町村等と連携し、情報発信やインバウンドの誘客等に取り組みます。

また、本県のスポーツツーリズムのポータルサイト「スポる！KOCHI」から、県内のスポーツ大会（参加募集情報）や、アクティビティの体験記事、サイクリングコース等を情報発信します。

あわせて、台湾をターゲットにサイクルツーリズムをします。

③高知龍馬マラソンの開催

- 県は、スポーツを「みる」「する」「ささえる」ことにより得られる楽しさや感動などを通して、県民の生涯スポーツの推進や地域・経済の活性化につなげるため、競技団体や民間企業、市町村等と連携し、高知龍馬マラソンを開催します。

また、海外からの参加者増加に向けた取り組みや、参加者に「どっぶり高知旅キャンペーン」の情報発信等を行い、観光振興に取り組めます。

【指標】 ・ スポーツ大会等による県外からの入込客数 R4: 16,573人 → R9: 3万人

④地元プロチーム等との連携

- 県は、J3参入を果たした高知ユナイテッドスポーツクラブや高知ファイティングドックスと連携し、地域・経済の活性化につなげるため、ホーム戦の観客増や観光PR等に取り組めます。また、スポーツ教室の開催等を通して、県民のスポーツ参画の拡大や競技力の向上に取り組めます。

【指標】 ・ 地元プロチーム等のホーム戦の県内外からの入込客数

<高知FD> R4: 9,095人 → R9: 1.2万人

<高知USC> R4: 13,795人 → R9: 5.7万人

⑤海外の国や地域とのスポーツ交流の実施

○ 県は、海外の選手や指導者との交流を通して競技力向上や異文化理解促進、地方創生やまちづくりの促進を図るため、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン登録国などの取り組みによりスポーツを通じた相互交流を実施します。

・シンガポール ・チェコ ・オーストラリア ・オランダ ・トンガ 等

⑥世界大会等の事前合宿の受け入れ

○ 県は、県民のスポーツに対する機運の醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、今後国内で実施される国際大会に出場する海外チームの事前合宿の受け入れに取り組みます。

＜主なターゲット大会＞

- ・東京2025世界陸上(令和7年/2025年/東京)
- ・第20回アジア競技大会(令和8年／2026年／愛知)
- ・ワールドマスターズゲームズ2027関西(令和9年／2027年／関西)

(2) デジタル技術の活用

【施策目標】

県内のスポーツ関連情報サイトの機能強化を図り、県内外に発信強化することにより、スポーツにおけるデジタル技術のさらなる活用を推進します。

<現状・課題>

- 高知県のスポーツ関連サイトの利用者数は着実に増加しているが、より多くの方に利用していただくための手立てが必要。
- ウイズコロナやアフターコロナ社会に対応したスポーツ教室の実施などにデジタル技術の活用が求められている。

〔具体的施策〕

①スポーツ情報の発信強化（再掲）

- 県は、より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト（スポーツNAVI）と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト（スポる！KOCHI）を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・ 「スポーツNAVI」 のページビュー数 R4:72,619→R9:11万
・ 「スポる！KOCHI」 のセッション数 R9:182,500セッション以上
※ページビュー数:Webサイト内のページを閲覧した回数
※セッション数:ユーザーがWebサイトに入ってから離脱した流れを「1」とカウント

(3) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

【施策目標】

市町村担当者会における情報共有や意見交換等を実施することにより、市町村と民間団体等との連携など、交流人口の拡大につながる体制の構築につなげます。

<現状・課題>

- 市町村でのスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性は感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。
- スポーツを通じた地域活性化の取組を効果的に進めるためには多分野の関係者の連携が不可欠だが、連携状況は不十分。

〔具体的施策〕

①スポーツツーリズムに関する市町村や関係団体等との連携強化

- 県は、市町村の実情や意向に応じたスポーツツーリズムの取り組みが効果的に進められるよう、市町村担当者会における情報共有や意見交換等を実施することを通して、市町村と民間団体等との連携を強化します。
- 集落活動センター等の受け入れ団体と連携を図り、スポーツ合宿の受け入れ施設の拡大を支援します。
- スポーツツーリズムを中山間振興につなげるため、集落活動センターでのスポーツ合宿誘致等の受け入れ体制（宿泊・食の提供等）の充実や誘客の仕組みづくりを支援します。

地域における子どものスポーツ環境づくり

現状・課題

- スポーツ少年団や運動部活動に所属する子どもが減少傾向にある
- 地域によっては、子どもたちがスポーツを継続できる環境が十分ではない
- 運動部活動や総合型地域スポーツクラブの加入状況は全国より低い状況にある
- 各地域において子どものスポーツ実施に繋がる取り組みが必要であるが、少子高齢化の加速に伴い地域スポーツを支える人材の不足やスポーツイベント等は減少、地域の子どものスポーツを取り巻く環境は厳しい
- 学校の運動部活動の地域連携や地域移行の検討が必要になっている

取組の方向性

- 子どもたちが身近な地域で希望するスポーツを続けられるようにするため
 - ・幼児期から運動やスポーツに親しみ、多様なスポーツを体験しながら自らの適性を見つけ、興味関心に応じてスポーツを続けられる環境づくりを推進する。
 - ・子どものスポーツ機会の拡充に向けて、市町村間の連携を促進するとともに、民間活力の活用や地域おこし協力隊の配置などにより、子どものスポーツ活動を支える人材の拡充を図る。

■子どものスポーツ環境の状況

○スポーツ少年団の団数・団員数

※県スポーツ協会調べ

項目	H28	R4
団数	221	182
団員数	4,332人	3,266人

○中学校の運動部活動数・部員数

※県スポーツ課調べ

項目	H28	R4
部数		
高知市	404	404
高知市以外	579	555
部員数		
高知市	5,664人	4,854人
高知市以外	5,870人	4,643人

○地域における小中学生の活動環境

※スポーツ課調べ

小・中学生とも、活動できる競技が5競技以下の市町村は全体の35.3%。また、多くの市町村において活動環境が小・中いずれかに限られている競技が見られる。

○部活動や総合型地域スポーツクラブ加入状況(中学生)

※R5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

項目	男子		女子	
	高知県	全国	高知県	全国
運動部	68.1	69.8	49.7	54.7
文化部	10.7	9.1	29.8	27.8
地域SC	13.3	25.3	9.1	15.5
未所属	14.9	10.3	17.6	13.7

持続可能な子どものスポーツ推進施策の全体イメージ

市町村

①市町村単位の取組の充実

地域において、**幼児期から**運動やスポーツに親しみ、**多様なスポーツを体験**しながら自らの適性を見つけ、興味関心に応じて**スポーツを続けられる場**を市町村ごとに整備する。

- 子どものスポーツ環境整備推進事業費補助金による財政支援**
 - ・地域における①スポーツに出会う場、②スポーツを続ける場、③専門的な能力を高める場の整備に向けた取組を支援
 - ・補助先：市町村
 - ・補助率：1/2以内
- 県版地域おこし協力隊による市町村事業への協力・助言・提案等の支援の充実**
- 運動部活動の地域連携や地域移行の検討**
 - ・令和5年度～7年度を改革推進期間とし、市町村毎に設置する協議会等において、地域の実情に応じた検討を実施
- 障害者の活動の受け皿づくり**
 - ・既存のスポーツクラブ等における障害者の活動づくりを推進

- 単一の市町村・団体等では解決が困難な課題の共有
- 促進委員として参画

【県・市町村連携】
子どものスポーツ環境を一体的に整備

- 市町村の課題等に応じた広域的な活動の提供

②広域の取組の推進

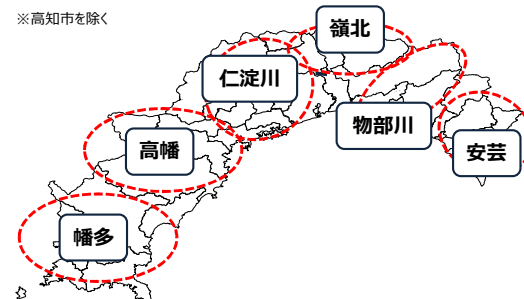
県

●県内6地域で地域の実情に応じた広域的な活動を推進

- ・構成市町村の行政職員等で構成する促進委員会を設置
- ・地域の実情に応じた広域アクションプランの策定

6地域

※高知市を除く



〈広域アクションプランの検討内容〉

- スポーツを「始める」「続ける」機会の創出**
 - ・複数の市町村が連携するスポーツ能力測定会、スポーツ体験会の開催
- 子どものスポーツ活動を支える人材の確保・育成**
 - ・保護者や地域の人材へのスポーツへの意識・関心を高める研修の開催

民間団体等

- ③民間活力による効果的な活動の展開
- ④地域おこし協力隊配置による活動推進

- 市町村の取組支援や広域の取組への助言、企画・運営補助 等
- 学校や地域でのスポーツ指導の実施

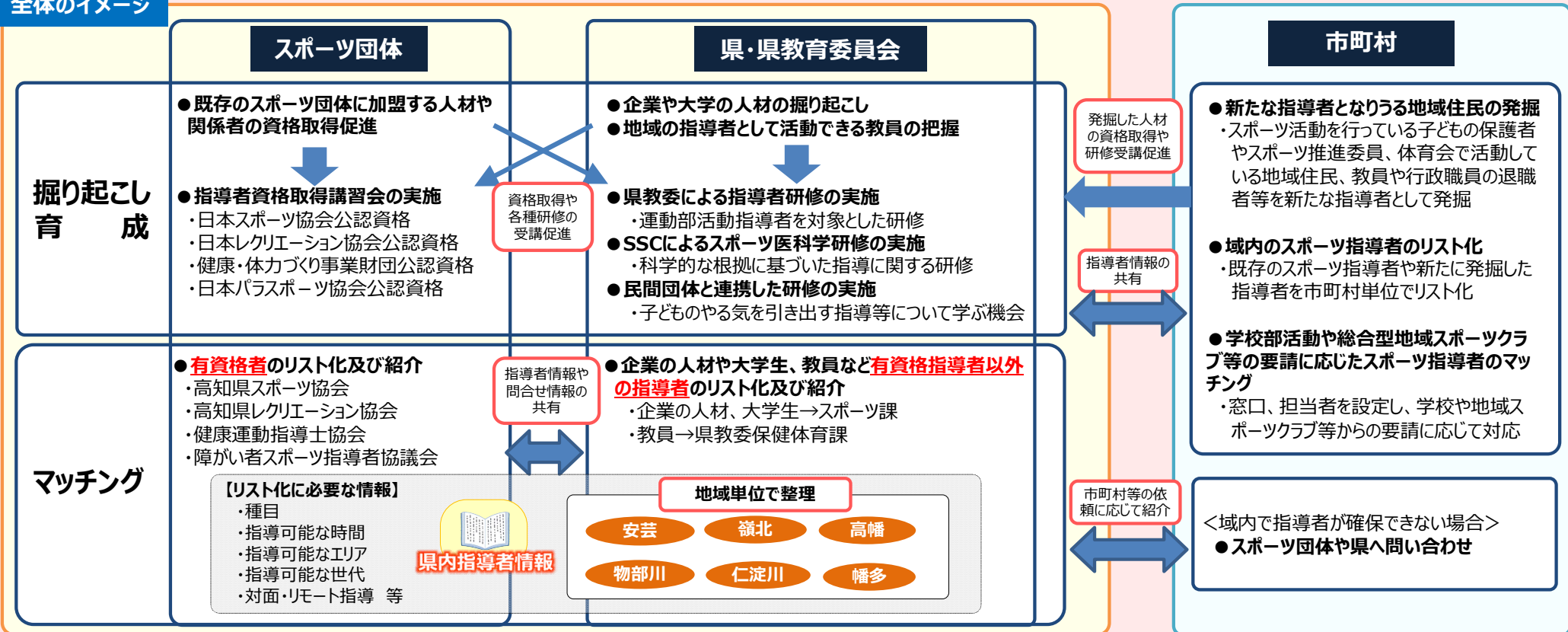
スポーツ指導者の育成及びマッチング

地域における既存のスポーツ活動の充実や学校部活動の地域移行を含めた新たな活動の展開を見据え、高知県スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体や県教育委員会等と連携し**安定的な指導者の確保（掘り起こし・育成・マッチング）に向けた体制づくり**を行う

【掘り起こし・育成】 地域住民や企業の職員、大学生等を**新たな指導者として発掘**するとともに、**指導者資格の取得促進及び各種研修会等の充実**を図る

【供給体制の構築】 地域の依頼に応じて**指導者のマッチング**を行うとともに、**効率的なマッチング体制の構築**に向け、指導者のリスト化や運用手法等を検討する

全体のイメージ



今後の展開

令和6年度

【掘り起こし・育成】

- 子どもが体を動かす楽しさを味わえる指導法などを学ぶ講習会の実施
- 市町村や競技団体と連携した新たな指導者の掘り起こし
- 公認スポーツ指導者資格を取得・更新するための講習会の実施
- 各種研修会の充実
(・SSCによるスポーツ医科学研修・ICTを活用したグッドコーチ研修等)

【マッチング】

- 地域のスポーツ指導者に関する調査（大学・企業）を活用したマッチング
- スポーツ団体、スポーツ課、県教委が各々にスポーツ指導者リストを活用した紹介
- 一元的な指導者情報の管理及びマッチングの運用について検討

令和7年度

【掘り起こし・育成】

- 新** ○保護者や大学生など、子どもの成長をサポートする人材の拡大
・子どもの成長や、適切な指導方法を学ぶ研修会の開催
- 新** ○スポーツ指導に関心のある人材の活用
・スポーツ中の怪我や事故、スポーツの楽しみ方や興味・関心を伝える研修会の開催
- 市町村や競技団体と連携した新たな指導者の掘り起こし
- 公認スポーツ指導者資格を取得・更新するための講習会の実施

【マッチング】

- スポーツ団体、スポーツ課、県教委が各々にスポーツ指導者リストを活用した紹介
- 一元的な指導者情報の管理及びマッチングの運用について検討

目指す姿

- 地域ごとのスポーツ指導者リストが整っている
(競技ごとのスポーツ指導者が確保されている)
- 地域のニーズに応じてスポーツ指導者を紹介する仕組みが構築されている

障害者がスポーツに親しめる環境づくり

現状・課題

- 障害者が活動できる場が少なく、スポーツに関する情報が障害当事者や関係者に十分に届いていない
- 全国や世界を目指して活動している障害者は増加傾向にあるものの、まだ少なく、そうした活動を支援する体制も十分でない
- 障害者スポーツに関心がある者の割合は高いとは言えず、障害者のスポーツ大会等を間近で見られる機会も少ない

取組の方向性

- 障害者が**身近な地域でスポーツに親しめる機会を増やす**とともに、地域における**障害者の活動を支援する体制づくり**を進め、県内の全ての地域において障害者のスポーツ参加の拡大を図る
- 競技力向上を目指して取り組む選手の活動を支援**するとともに、将来**有望な選手を発掘・育成**し全国や世界を目指す選手の増加を図る
- 障害者スポーツの全国大会やトップチームの活動を間近で見られる機会**を増やし、障害者スポーツの理解啓発及び機運の醸成を図る



取組内容

■ 障害者スポーツの活動支援

障害者スポーツセンターを核として、障害者のスポーツ参加支援や情報の発信、理解啓発の取り組みを実施

- 障害者スポーツコーディネーターや地域のパラスポーツ指導員による地域のスポーツ活動と障害当事者とのマッチング
- パラスポーツ指導員の養成講習会の実施
- 全国障害者スポーツ大会及び中四国ブロック大会の開催・選手の派遣
- 高知県障害者スポーツ大会の開催
- 障害者スポーツの情報の活用強化
 - ・スポーツ教室やイベント、大会情報の発信
 - ・スポーツ大会の結果の収集・発信、メディアへの情報提供
 - ・既存のチームや団体の活動の紹介
- 障害者スポーツの理解啓発
 - ・学校や障害者施設と連携した障害者スポーツの理解啓発の取組の実施



■ 全国や世界を目指す選手の発掘・育成

- 全国大会以上の競技大会で入賞を目指す選手の強化活動を支援
- 優秀な競技成績を有する選手を特別強化選手として指定し、活動を支援
- 体験会や記録会等、有望選手を発掘し育成する取り組みの推進



■ 身近な地域におけるスポーツ機会の拡充

障害者が身近な地域で安心してスポーツに参加できるようにするため、地域におけるスポーツ機会の提供や誰もが参加できるイベント等の開催

- 障害者の活動の受け皿づくり
 - ・既存スポーツ活動への障害者の受入れを促進
 - ・**大学等と連携した障害者がスポーツ活動できる場づくり**
- スポーツに出会う機会の充実
 - ・学校や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、障害者が気軽に参加できるスポーツ機会の提供
- 用具の配置及び用具の貸出しの充実**
 - ・障害者スポーツ用具の充実によるスポーツ機会の拡充
- インクルーシブなスポーツ活動の推進**
 - ・インクルーシブなスポーツイベントの開催
 - ・若者の障害者スポーツへの参加拡大
 - ・ダンスを通じた取り組みの充実



■ 障害者スポーツ大会や合宿の誘致

- 競技団体と連携した、あらゆる区分の障害者が参加できる大会の開催**
- 障害者スポーツの全国大会やトップチームの合宿の誘致



■ 障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実

- 障害者スポーツセンターの機能強化**
- 関係機関・団体と連携して障害者のスポーツ活動を支援する体制づくり

目指す姿

県民の健康意識が向上し、よりよい生活習慣が定着することで、健康寿命の延伸に寄与する



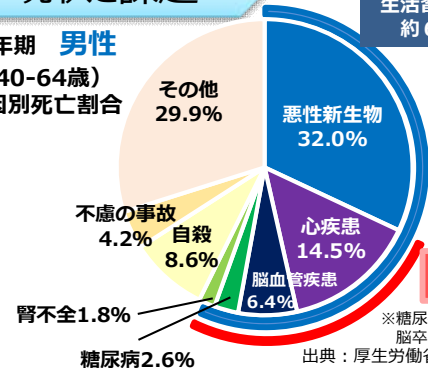
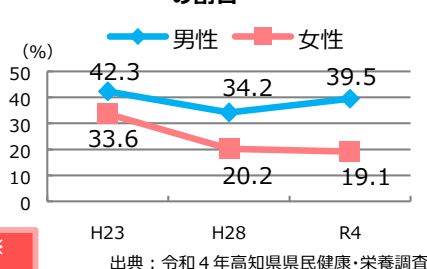
KPI	基準値	目標値(R9)
【第2階層】BMI25以上の県民の割合（40～69歳）	男性：39.5% 女性：19.1%（R4）	男性：35%未満 女性：17%未満
【第1階層】健康パスポートアプリ事業所アカウント取得企業数	23事業所（R6年1月）	440事業所

現状と課題

壮年期 男性

（40～64歳）

死因別死亡割合

生活習慣病
約6割40～69歳の肥満者(BMI25以上)
の割合血管病※
約1/4※糖尿病、高血圧、動脈硬化などにより引き起こされる一連の疾患（心筋梗塞、脳卒中など）を「血管病」と喚び、対策を強化しています。
出典：厚生労働省「令和4年人口動態統計」

- 【現状】・壮年期（40～64歳）男性の死亡率は全国平均より高い状況
・死因別死亡割合は血管病が約1/4を占める
・血管病の発症・重症化の要因の1つが高血糖。血糖値の上昇には、
①20歳から10kg以上の体重増加、②運動習慣が無いこと、③喫煙が関連
・男性の平均歩数、BMI（平均値）が全国ワースト1位（H28国民健康・栄養調査）

- 【課題】・肥満・適正体重維持の重要性について、さらなる県民への啓発
・働きざかり世代に届きやすい職場で取り組める健康づくりプログラムを官民協働で提供するなど、事業所が主体的に健康づくりに取り組める環境づくり
・事業所等が県民の健康づくりに寄与するサービスや機会を提供できる仕組みの強化

第5期構想（R6～R9）で目指す姿（イメージ）

高知家健康会議（高知版日本健康会議）

推進テーマ：①予防・健康づくりの推進、②健康経営の推進、③高知版地域包括ケアシステムの構築

新

生活習慣病対策部会（仮称）の立ち上げ

働きざかり世代に届きやすいよう「職域」と連携した取り組みを実施

<高知家健康会議 部会としての取り組み>

- ①部会で検討した事業所（職域）向けイベントの実施
（例）適正体重化コンテスト、歩数競争、団体戦（東西対抗戦）
- ②イベント参加や情報提供を希望する企業・団体を登録
⇒健康づくりに取り組む事業所として、部会内で共有
- ③部会参画団体に所属している企業・団体に対する情報提供
（例）各種セミナー等健康づくりに関する情報提供（メルマガ等）

クラウドファンディングを活用

多様な関係機関が連携し、事業所が主体的に健康づくりに取り組める「環境」づくりを推進

実効性を重視した柔軟なPDCAに基づいた事業展開

よりよい生活習慣の定着化

令和6年度の取り組み

- （1）民間企業や保険者等と連携した「高知家健康チャレンジ」による県民への啓発
・運動促進や食生活改善などに関する啓発
- （2）健康パスポートアプリを活用した県民の健康づくり
・事業所及び市町村ごとの活用を推進
- （3）「地域」と「職域」が連携して進める「健康づくり県民運動」のさらなる推進
新・高知家健康会議 部会設置により具体的な取り組みの実践
事業所（職域）向けイベントの実施
健康づくりに関する情報を積極的に提供
- （4）COPD対策の推進
拡・市町村と連携した喫煙対策の充実及びCOPD対策の推進

若者の関心が高い新たなスポーツの推進

目的

子供や若者に関心が高い**新たなスポーツ**や**健常者と障害者が一緒に楽しめるスポーツ**の機会の拡充、**スポーツ施設の整備**（県民体育館の再整備等）により、**若い世代が楽しめるスポーツの選択肢を増やし**、若者の県外流出の抑制や子育て環境の充実につなげる。

現状・課題

- 若い世代のスポーツ実施率が他の年代より低く、スポーツ離れが生じている
- 中山間地域では活動できるスポーツが限定されている
- 高知市以外の市町村で障害者がスポーツできる場が少ない
- 幼少期からの運動習慣の定着や生涯にわたってスポーツに親しむためには、身近な場所で関心のあるスポーツに触れる機会を増やすことが必要
- 中山間地域でも継続的にスポーツに親しむことができる環境をつくる必要がある
- 本県出身のメダリストの活躍によるスポーツ機運の高まりを、継続的に様々な取組に波及させていくことが必要

目指す姿

子供や若者に関心が高い**新たなスポーツ**の「**する人口**」・「**場**」・「**交流人口**」が増加する

- ・アーバンスポーツの活動の場及び愛好者が増加する
- ・全国から参加者が得られるeスポーツ大会が定着する
- ・新たなジュニア競技大会が定着し、競技人口が増加する
- ・インクルーシブなスポーツの機会及び参加者が増加する
- ・プロやトップチームを間近で見られる機会が増加する

取組内容

■ 子どもや若者に関心が高い新たなスポーツの推進

若者の関心が高いアーバンスポーツやeスポーツを通じたスポーツ推進

①アーバンスポーツ体験イベント

スケートボードやBMX、ダンスなどが体験できるイベントの開催

②eスポーツイベント

障害の有無に関わらず誰もが参加できるeスポーツイベント

③ダンスレッスンを通じた若者の交流及び支える人材の確保

若者を対象としたダンスレッスンや地域のダンス活動を支える人材を育てるための養成講習

■ メダリスト等による魅力あるスポーツ機会の充実

パリ2024大会のメダリストによるスポーツ大会等の推進

④オリンピックメダリストによる大会及びスポーツ教室

パリ2024オリンピックのメダリストの冠大会(レスリング)開催支援及びメダリストによるスポーツ教室

■ 誰もが一緒に楽しめるスポーツ機会の拡充

障害の有無に関わらず誰もが楽しめるインクルーシブなスポーツの推進

⑤インクルーシブスポーツイベント

健常者と障害者が一緒に楽しみながら競い合うイベント

⑥インクルーシブな競技測定会

小学生を対象としたインクルーシブな陸上競技の測定会

■ 県民体育館の再整備

若者に人気がある屋内競技のプロやトップチームの大会誘致等を見据えた県民体育館の再整備

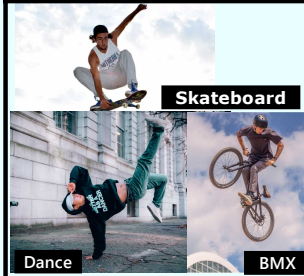
eスポーツ



【内容】

プロeスポーツプレイヤーによるエキシビジョンマッチや対戦会、eスポーツ体験コーナー、トークショー 等のイベントを開催

アーバンスポーツ



【内容】

BMX・スケボー体験会、ダンスワークショップやダンスイベントなど、アーバンスポーツを「見る」「する」イベントを開催

メダリストの冠大会(レスリング) メダリストによるスポーツ教室



【内容】

新たに開催するメダリストによる西日本規模の冠大会（競技団体主催）にあわせ、メダリストによるレスリング教室を開催

インクルーシブスポーツ



【内容】

本県のオリンピックやパラリンピアン、著名人等が、複数のチームに分かれて参加者と一緒に行うユニバーサルな運動会を開催

※1 アーバンスポーツ：速さや高さを追求し、華麗な離れ業などを競う都市型スポーツ。

本県における当面の主なターゲット競技（BMX、スケードボード、スポーツクライミング、ダンス）

※2 インクルーシブスポーツ：年齢、性別、障害の有無などに関わらず誰もが一緒に楽しめるスポーツ

ダンスを通じた地域の活性化

スポまち！表彰
2024受賞事業

※「スポまち！表彰」：スポーツ庁が、スポーツによる地方創生・まちづくりに積極的に取り組もうとする自治体の取組計画をスポーツ庁が表彰する制度

<目的>

ダンスを通じて、子どもや若者、障害者が生き生きと輝ける地域づくり

プロダンスチーム（SEPTENI RAPTURES）や高知県スポーツコミッションと連携し、ダンスを通じて、

- ①身近な場所で**やりたいスポーツができる**場づくり（ダンスは場所が限定されず始めやすい!!）
- ②**インクルーシブ**なスポーツ活動の拡大（ダンスは個人の能力に応じたパフォーマンスで楽しむことができる!!）
- ③**デジタル技術**の活用（リモートによるダンスレッスンで指導者不足を解消!!）
- ④インクルーシブな**ダンスイベント**の開催（「する」「みる」スポーツとしての魅力を発信!!）

などに取り組み、子どもや若者、障害者が生き生きと輝ける地域づくりを進める。



<現状・課題>

- ・指導者の不足や少子化などの影響により、身近な地域で活動できるスポーツが限定されている
- ・中山間地域では日常的に活動拠点に集まって活動することに移動面での負担が大きい
- ・健常者と障害者が一緒にスポーツ活動に取り組むことが出来る機会が少ない
- ・子どもたちが行いたいスポーツ（希望する種目）としてダンスが占める割合が高い
- ・令和5年2月、本県とPERF（株）でダンスを通じたスポーツ振興等を目的に連携協定を締結



<総合的な取組内容>



<継続的な取組を確保できる体制>



目指す姿

- 継続してダンスに取り組むことができる地域が増える
- スポーツを「支える」人材が新たに育成される
- 運動が好きな子どもの割合が増加する
- 若者のスポーツ実施率が向上する
- 障害者がスポーツ活動できる場が増加する

高知県パスウェイシステム事業

趣旨・目的

- 本県のジュニアスポーツの普及や選手育成について、県が関係団体等と連携して子どもたちのスポーツの可能性をつなぎ、広げる機会を提供することにより、スポーツの裾野の拡大や競技力の向上につなげる
- 幼児から小学低学年の子どもへ運動やスポーツを行う機会を提供したり、小学中・高学年の児童へ自分に合った競技を見つけられる測定会やスポーツ体験会を実施するなど、体を動かす機会や専門的にスポーツを始める機会を提供する
- 県内の運動能力に優れた小学生を発掘し、さらに運動能力を高めるトレーニングや競技プログラムを実施するなど、将来の有望選手を発掘・育成する取組。併せて県内競技団体へつなげる活動も行う（アスリートパスウェイ）

取組内容

マッチングプログラム

I あそびを通してスポーツに出会う

【目的】

スポーツへの関心を高め、スポーツを行う子どもを増やすことを目的とし、子どもと保護者が楽しく運動やスポーツに親しむプログラムを提供する。

■ I-1（あそびバ！）3回

- ・対象：年中～小学3年生
- ・内容：親子で参加する遊びを通じた運動プログラム及び保護者等に対して運動に関する知識や情報を提供する
- ・（一社）日本トップリーグ連携機構との連携
- ・実施地域：東部・中部・西部（各1回ずつ）

■ I-2（遊びの広場）6回

- ・対象：年中～小学6年生
- ・内容：気軽に参加でき、楽しく体を動かすことができる運動プログラム
- ・実施地域：東部・中部・西部（各1回ずつ）
県内市町村（3回）

II スポーツを体験する

【目的】

小学校の中・高学年の児童が専門的にスポーツを始めるためのきっかけ作りを目的とし、運動能力の測定と多様な競技を体験することができる機会を提供する。

■ II-1（スポーツ能力測定会）1回

- ・対象：小学3年生～小学6年生
- ・内容：運動能力測定会
- ・（一社）スポーツ能力発見協会との連携
- ・実施地域：中部

■ II-2（キッズスポーツ体験会）4回

- ・対象：おもに小学3年生～6年生（競技により対象年齢の変更あり）
- ・内容：競技体験プログラム
- ・実施地域：県内各地4回

タレント発掘・育成事業（くろしおキッズ）

県内各地の優秀なタレントを発掘

■ ちゃれんじ（選考会）

- 対象：県内小学3年生（次年度の新4年生）及び4年生（次年度の新5年生）
- 実施時期：ちゃれんじ1（9月～11月）、ちゃれんじ2（12月）
- 参加者：ちゃれんじ1（135名）、ちゃれんじ2（58名）（R5年度）
- 合格人数：新4年生20名程度、新5年生5名程度⇒合格率：約15%

《選考内容》

●ちゃれんじ1 <一次選考>

新体力測定（※書類選考）

（身長、体重、上体起こし、反復横跳び、握力、ボール投げ、立ち幅跳び、長座体前屈、50m走、20mシャトルラン）

●ちゃれんじ2 <二次選考>

専門体力測定＋自己PR動画＋面接

（4方向ステップ、垂直跳び、立ち5段跳び、全身反応）

各競技団体と連携し様々なプログラムを通したキッズの育成

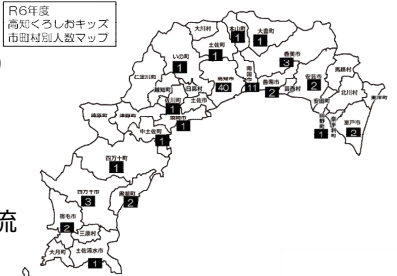
■ 育成プログラム

- 競技体験プログラム（全15競技）
 - ・基本動作（ダンス）
 - ・アクロバット（飛び込み、トランポリン、スポーツクライミング）
 - ・コンバット（フェンシング、レスリング、柔道）
 - ・ゲーム（バドミントン、ラグビー、バレーボール、ゴルフ、ハンドボール）
 - ・ターゲット（ライフル射撃）
 - ・記録（カヌー、セーリング）
- トレーニングプログラム（SAQ講師による運動能力向上トレーニング）
- 知的トレーニング（コミュニケーション、栄養、メンタル、スポーツ医科学など）
- 保護者プログラム（保護者対象の育成プログラム）
- 合宿プログラム
 - ・夏期合宿（4～6年生）
 - ・大阪体育大学合宿（6年生のみ）
- スペシャルプログラム（著名なスポーツ選手等による競技体験や講演）
- 四国交流プログラム（5年生のみ）※愛媛県、香川県のタレント生と交流
- 体力測定（R6より全学年SSCを活用）

《R6年度所属》

- ・合計77名
（4年：23名、5年：30名、6年：24名）
- ・19市町村から参加
県内各地の優秀なタレント生が参加

R6年度
高知くろしおキッズ
市町村別人数マップ



さらなる競技力向上に向けた強化

目的

競技団体ごとに課題を捉えた効果的な強化を徹底するとともに、国民スポーツ大会入賞や日本代表選手の輩出が特に期待される「全高知チーム」のさらなる強化や、スポーツ医科学面からの質の高いサポートを行うことで、障害者スポーツを含めた各競技団体の組織的な育成・強化体制の充実を図り、本県の競技力を引き上げる

現状

- ・組織的な取組の強化が浸透し、系統的な指導体制が充実にきたことにより、国民スポーツ大会獲得点数の増加や国際大会等でも入賞する選手が育ってきている
- ・全国大会等において、安定して上位をねらうことができる競技団体が少なく、活動の成果が競技成績に表れていない競技団体がある
- ・スポーツ医科学面から選手や指導者をサポートする体制をさらに強化する必要がある

取り組み

競技団体の実情に応じた効果的な強化

■ 国民スポーツ大会対策強化（共通）

国民スポーツ大会正式競技（41競技）における基本的な強化

■ 特別強化選手支援（共通）

優秀な競技成績を収めている選手を特別強化選手に指定し、日本代表選手等を目指して、さらなるレベルアップを図る取り組みを支援

■ 全高知チーム

① 特別強化コーチ派遣

国民スポーツ大会入賞や日本代表選手の輩出が特に期待される競技に対して、特別強化コーチを派遣するなど「全高知チーム」による重点強化を行う

② 遠征強化

全国トップレベルのチームとの対戦による成果・実力の確認

■ 全高知チーム以外

① ジュニア強化

特にジュニア層の普及・育成が必要な競技団体が行う取り組み

② 女性強化

特に女子選手のレベルアップが必要な競技団体が行う強化

③ チーム招聘

優秀なチームを招聘し、レベルアップを行う強化

④ アドバイザー招聘

優秀なコーチを招聘し高度な技術・戦術・トレーニング方法の指導に加え、組織マネジメントやネットワーク構築、情報の活用など、総合的な指導助言を行う

全高知チームによる重点強化

【全高知チーム】

競技ごとに、県内の小学生から一般までの有望選手を強化選手に指定し、年間を通して定期的に質の高い強化練習を行うチーム

■ 認定された全高知チーム（15競技）

①ソフトボール ②レスリング ③剣道 ④カヌー ⑤サッカー
⑥ラグビー ⑦水泳 ⑧陸上 ⑨卓球 ⑩柔道
⑪バドミントン ⑫ライフル射撃 ⑬バスケットボール ⑭ソフテニス
⑮バレーボール

■ 特別強化コーチによる指導・監修の徹底

- ・特別強化コーチの指導による強化練習を徹底
- ・特別強化コーチの監修による強化計画の定期的な見直しを徹底

■ 県外遠征等の質の高い練習の増加

国民スポーツ大会までの段階的な目標を達成するため、県外遠征等の質の高い練習を増加

■ 県内指導者の指導力向上

全高知チームの活動を通じた県内指導者の実践研修の充実

障害者の競技力向上支援

■ 特別強化選手支援

優秀な競技成績を収めている選手を特別強化選手に指定し、日本代表選手等を目指して、さらなるレベルアップを図る取り組みを支援

■ 競技性の高い取組への支援

障害者スポーツセンターのコーディネート機能を強化し、全国大会等を目指す選手が競技レベルを高めるために行う取組を支援

■ 指導者の育成

パラスポーツ指導員の資格取得のための講習会の実施

拡

スポーツ医科学の活用

■ 高知県スポーツ科学センター（SSC）によるスポーツ医科学面からのサポート

- スポーツ医科学に係る年間計画の作成を支援
- 多様なニーズに応える体制・連携の強化
- 体制の強化及び環境の充実

・スポーツ医科学の見地から様々なサポートの充実
【サポート内容】

- | | |
|----------------|-----------|
| ①専門体力測定 | ④メンタルサポート |
| ②コンディショニングサポート | ⑤動作分析 |
| ③栄養サポート | ⑥ゲーム分析 |



拡

競技団体における組織的な活動の充実

■ 組織的・計画的な取組の推進

- ・各競技の特性に合った強化策の充実（競技者育成プログラムにおける各競技団体の組織的な育成・強化／RPDCAの徹底）
- ・各競技団体における適切なガバナンスの推進

デジタル技術の活用

■ デジタル技術の効果的な活用

- ・デジタル技術を効果的に活用した選手の育成

スポーツ施設・設備の整備

■ 計画的な整備の実施

- ・競技拠点施設等の整備
- ・新たなスポーツ施設整備の検討
- ・高知県スポーツ推進交付金の活用

高知県スポーツ科学センター（SSC）によるスポーツ医科学サポートのさらなる充実

目的・主な役割

スポーツ現場において行われる、健康増進や競技力向上に向けた技術練習、トレーニングが、年齢、体力、競技特性等に応じて、合理的かつ効率的・効果的に行われるよう、スポーツ医科学の見地から様々なサポートを行う

【主な役割】

- （1）パフォーマンス向上支援（体力測定・各種サポート支援等（障害者アスリートを含む））
- （2）指導者やサポートスタッフの育成支援
- （3）スポーツ科学の研究
- （4）スポーツ医科学関連情報の収集・発信
- （5）産学官民の連携によるスポーツを支える支援体制の充実強化

課題

- ・スポーツ医科学の活用について、個々の選手の課題に対応するきめ細かなアプローチが必要
- ・高知県スポーツ科学センターが協力を得られている関係者が限定的
- ・スポーツ指導者等への指導力向上のための出張指導や研修事業のさらなる充実が必要



業務内容

1. パフォーマンス向上支援事業

健康づくりや競技力向上の実践に対するスポーツ医科学面からのサポート事業

下線は全てサポートスタッフ：下記の※表1を参照

対象者	内容	対応スタッフ
スポーツ愛好者	一般体力測定 身長・体重・肺活量や基本的な体力の測定⇒コンディショニング指導	SSCスタッフ
アスリート（パラアスリート）	①メディカルチェック 医療機関による内科系・整形外科系の医学的検査	医療機関医師
	②専門体力測定 専門機器を活用して瞬発系や持久系などの体力の測定	SSCスタッフ
	③コンディショニング（トレーニング）サポート 専門体力測定の結果等によるトレーニング・コンディショニング指導	SSCスタッフ サポートスタッフ（コンディショニング）
	④栄養サポート 体づくりや体調管理のための栄養素の摂り方などの指導・助言	サポートスタッフ（栄養）
	⑤メンタルサポート 実際の食事メニューの改善 専門指導者によるメンタルコントロールサポート	サポートスタッフ（心理）
	⑥動作分析 選手の基本技術の動作を映像等で分析	SSCスタッフ サポートスタッフ（パフォーマンス分析）
	⑦ゲーム分析 チームや個人のゲーム中の動きをデータ化・映像化して分析	サポートスタッフ（パフォーマンス分析）

※表1：サポートスタッフ

2. 研修・支援事業

スポーツ指導者やスポーツ拠点のスタッフの指導力向上のために行う出張指導や研修事業

内容	対応スタッフ
出張出張事業 スポーツ指導者やスポーツを行っている子どもを持つ保護者、地域のスポーツ拠点のスタッフ等に対して、コンディショニング、栄養学、心理学等の知識や実践、効果的なトレーニング方法やスポーツ障害防止などについて指導	SSCスタッフ 外部講師
指導者等養成研修事業 競技別医科学コーディネーター（※1）、サポートスタッフ等に対する各種養成研修等	SSCスタッフ 外部講師

※1：各競技団体のスポーツ医科学担当者

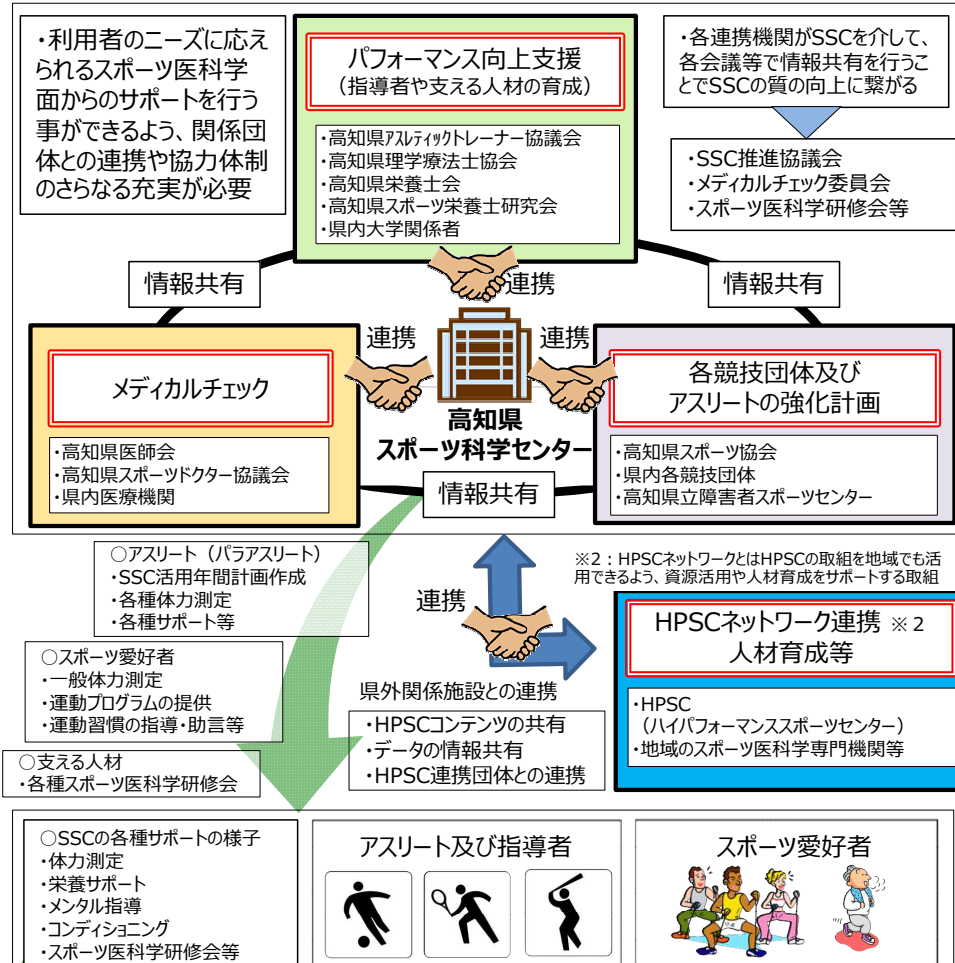
3. 研究・情報活用事業

高知県の実情に応じたスポーツ科学の研究やスポーツ医科学情報の収集・発信

内容	対応スタッフ
研究事業 高知県の実情に応じたスポーツ科学の研究・活用	SSCスタッフ
情報活用事業 スポーツ医科学情報の発信 スポーツを通じた健康に関する情報の発信	SSCスタッフ

連携体制

・産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実に向けて



高知県アスリート・指導者キャリア支援事業（案）

現状・課題

- アスリートや指導者の企業就職を支援する仕組みがないため、有望な選手が県外に就職しているケースがある
- 一般的な就職／中途採用とは異なるサポートが必要となるが県内に対応できる窓口がない

取組の方向性

- 有望な選手や指導者を県内企業に受け入れる仕組みの構築
- アスリートや指導者が県内で就職・活動続けるためのサポート窓口を開設し、マッチングを支援

目指す姿

- アスリートや指導者と県内企業をマッチングする仕組みが構築されている。
- マッチングの仕組みを活用して県内企業への受入れが進んでいる。

◆運用イメージ

1. 掘り起こし

- アスリート・指導者の雇用やサポートに関心のある**企業の掘り起こし**

＜サポート内容 例＞

- ・アスリートが大会などへ出場する際の休暇を推奨
- ・練習時間を確保しやすいように勤務時間を調整（フレックス等）
- ・遠征などの活動費をサポート など



2. マッチング支援

- 県内での就職を希望するアスリートを対象とした「**アスリート等キャリア支援バンク**」の運用

＜主な対象者＞

【アスリート】

- ・オリンピック・パラリンピックへの出場経験がある
- ・過去3年間に国際大会又は国民スポーツ大会、全日本選手権大会等の国内大会に出場経験がある

【指導者】

- ・日本スポーツ協会公認指導者資格を有し、個人や団体を全国大会に出場させ、入賞させた実績がある

+

今後3年以上競技を継続する意向があり、国スポや全国大会入賞を目指す方

+

高知県の団体が国スポや全国大会入賞を目指す(排出する)ための指導を行う方

- 無料職業紹介所の開設**

- ・スポーツ課に無料職業紹介所を開設し、登録企業の求人情報を紹介
- ・「アスリート等キャリア支援バンク」の登録者を中心に就職をサポート
- ・専用HPの開設

- 民間企業や自治体等が主催する**マッチングイベント、合同説明会への出展等**

3. アフターフォロー等

- 採用されたアスリート・指導者及び採用した企業のフォロー

- 競技活動をサポートしてくれる企業をHPなどで紹介
- ・スポーツ課HP
- ・専用HP 等

- 関係機関と連携し、求職者が採用に至るまでのフォロー

◆マッチングまでのスキーム

■求職者（アスリート・指導者）側

STEP1 アスリート等キャリア支援バンクに登録

- ・エントリーシートを提出することで登録が可能
- ・登録者には資料を送付
- ・情報収集の一環として登録可能
- ※事務局はエントリーシートでアスリートとしてのキャリアを確認

STEP2 求職登録

- ・就職斡旋を希望する場合「求職票」を提出
- ・希望する求人や企業の詳細について職業紹介所担当者が補足
- ・企業側から受けられるサポートなどについて説明

STEP3 面接

- ・企業の採用面接
- ※面接の調整は必要があれば職業紹介所が仲介
- ※必要があれば面接指導を行う

STEP4 結果

- ・採用の場合企業で勤務

■求人企業側

STEP1 求人登録

- ・斡旋を希望する場合「求人票」を提出
- ※事務局はアスリートへのサポートの可否について確認

- ・職業紹介所からの問い合わせ対応
- ・求人情報の更新（随時）



STEP2 面接

- ・採用面接の実施

STEP3 結果

- ・雇用

◆期待される効果

- 県外で活動している人が、競技を続けながら高知県で就職したいニーズへ対応することによるUターン促進

- 働きながら競技活動ができる場を提供することによる若者の流出抑制

- 県内企業の人手不足の改善

◆令和6年度

- 企業・競技団体へのアンケート実施
- 無料職業紹介所の開設
- 専用ホームページの開設

◆令和7年度以降のスケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
マッチング支援（アスリート等キャリア支援バンクの運用）【随時】											
		マッチングイベントや合同説明会等への出展						マッチングイベントや合同説明会等への出展			

スポーツツーリズムの推進

目標

スポーツを通じた県外入込客数
R4年:5.3万人 → R9年:12万人

プロ・アマチュアスポーツのキャンプや合宿、大会の誘致、地域の特色を活かしたスポーツツーリズム等を推進し、地域経済の活性化やスポーツ参加の拡大、競技力の向上につなげる。

1 プロ・アマチュアスポーツの誘致

本県の温暖な気候やスポーツ施設を活かし、プロスポーツのキャンプやアマチュアスポーツ合宿、大会を誘致する。

(1) プロスポーツ

- 観光コンベンション協会を中心にチームのニーズ等に対し、きめ細かな対応を行う等、キャンプや大会の継続、新規チームの誘致を行う。
- キャンプや大会期間中は、「どっぶり高知旅キャンペーン」と連携し、周遊観光の情報発信や県産品PRの強化を行う。

(2) アマチュアスポーツ

- 観光コンベンション協会の助成制度の案内や、市町村と連携した合宿や大会の誘致活動を行う。
- スポーツ合宿助成金やMICEなどの助成制度の周知を行う。
- 旅行会社と連携した誘致活動を行う。



2 地域の特色を活かしたスポーツツーリズムの推進

本県の豊かな自然など地域の特色を活かしたスポーツやアクティビティを情報発信するとともに、自然を活かしたスポーツ大会の開催を促進する。

(1) 情報発信

- 本県のスポーツツーリズムのポータルサイト「スポる！ KOCHI」から、県内のスポーツ大会(参加募集情報)や、アクティビティの体験記事、サイクリングコース(43コース)等を情報発信する。
(英語、韓国語、簡体字、繁体字、日本語に対応)
- 台湾をターゲットにサイクルツーリズムを推進する。
(インフルエンサーの招聘、展示会出展等)

(2) 自然を活かしたスポーツ大会の開催促進

- 自然環境を活かしたスポーツ大会支援事業の周知等
(助成額: 50万円～300万円)
- 「スポる！ KOCHI」による情報発信(再掲)



3 高知龍馬マラソンの開催

大会を通じて、生涯スポーツの普及、スポーツ参加の拡大や観光振興を図る。

(1) 種目

- フルマラソンの部(42.195km)
- ファンランの部(1.4km)
- ペアリレーの部(約43km)

(2) 新たな取り組み

- 海外エントリー枠の設置
- トップコーチ等によるマラソン教室(10回)
- 参加者交流イベントドリンクフリー開催
- 大会Tシャツの公募デザインコンテスト
- SNS等からの情報発信(運営の改善点等)
- 青山学院大学陸上部によるペースランナー



4 地元プロスポーツ等との連携

地元プロスポーツチーム等のホーム戦の観客増加の取組やチームと連携した観光PR等を行う。

(1) 高知ファイティングドッグス

- 公式戦への県内外からの集客促進
- 公式戦やイベントなどの情報発信
- 高知FDを応援する県民会議の設置
- ホーム戦で県民会議Dayの開催

(2) 高知ユナイテッドSC

- 公式戦への県内外からの集客促進
- 「どっぶり高知旅キャンペーン」と連携したホーム・アウェイ戦での観光PR



どっぶり高知旅
SUPER LOCAL KOCHI

5 スポーツを通じた国際交流

東京2020オリンピックを契機にホストタウン登録国等とのスポーツを通じた交流を促進する。

(1) シンガポールスポーツクラブとの相互交流

- 卓球、バドミントンの選手の相互交流
(H28に、県教育委員会とシンガポールスポーツスクールとの間で「スポーツ交流協定書」を締結)

(2) 東京2025世界陸上競技選手権大会

- ホストタウン登録国等の事前合宿の受入
- 選手や指導者との相互交流



シンガポール



チェコ



オーストラリア



オランダ

スポーツにおけるデジタル技術の活用

- 特に中山間地域では、身近な場所で活動できるスポーツの種目が少なく、やりたいスポーツを行う場合には移動手段の確保などの課題がある
- 「みる」「する」「ささえる」といった多様なスタイルでスポーツを楽しむことが求められており、より気軽にスポーツに触れる機会をつくる必要がある
- 選手の育成・強化においてデジタル技術の活用はまだ少ない

取組内容

リモートやVR・AR等を活用したスポーツ活動の推進

目的

スポーツ参加に関する移動面の負担軽減や、広域を対象としたスポーツサービスの提供などによりスポーツ参加の拡大につなげる

取組内容

- 総合型地域スポーツクラブ等が行うリモート機器を活用した取組（スポーツサービスの提供）への支援
- 地域のスポーツ指導者等を対象としたリモート機器を活用し研修会等の実施
- オンラインによるスポーツ教室の開催

期待される効果

- スポーツ参加における移動面の負担軽減
- 多様なスポーツ機会提供
- 指導者不足によるスポーツ機会喪失の解消
- 研修受講者の拡大



スポーツ情報の発信・活用の強化

目的

- ・スポーツ情報の発信を強化し、県内外のより多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつなげる

取組内容

- スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト（こうちでスポーツ／こうちスポーツNAVI）を活用した情報発信
- 県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト（スポる！KOCHI）を活用した情報発信及びプロモーションの実施

期待される効果

- 県内のスポーツ施設、スポーツイベント、スポーツサークル等の検索が簡易になり、スポーツに出会う機会の増加によるスポーツ参加の拡大
- 本県の魅力的かつ旬なスポーツ情報の提供により、県内への誘客増加や県内のスポーツによる交流人口の拡大



競技力向上に向けたデジタル機器の活用

目的

- ・大会の動画配信により、リアルタイムでトップコーチから指導が受けられとともに、試合における技術や戦術の分析につなげ競技力の向上を図る
- ・競技団体やスポーツ科学センターにおけるデジタル技術の活用により、効果的な練習やスポーツ医科学サポートの実践につなげる

取組内容

- 各種スポーツ大会の動画の配信
- 競技団体における技術や戦術の向上につながるデジタル機器の活用の促進
- 高知県スポーツ科学センターにおけるデジタル機器のさらなる活用
 - ・短距離走のタイムをワイヤレスで自動かつ正確に測定できる機器
 - ・自転車こぎ運動により心肺機能等を評価する機器 等

期待される効果

- 試合直後にリアルタイムでコーチから指導が受けられることによる選手の競技力の向上
- 強化選手以外の選手や指導者の指導力の向上
- より詳細に個々の体力を把握することによる競技力向上につながるトレーニングの推進



スポーツ医科学面からのサポートの拡充

目的

- ・スポーツ医科学のリモートの研修やサポートを実施し、指導者等の指導力の向上を図るとともに、スポーツ医科学の活用の増加を図る

取組内容

- 高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医科学研究やトレーニング指導等の実施
- 高知県スポーツ科学センターにおけるデジタル機器のさらなる活用
 - ・立位が困難なパラアスリートなどの体組成を仰臥位で測定する機器
 - ・ヘモグロビン量を推定しコンディションをモニタリングできる機器
 - ・ウェイトを持ち上げる速度をモニタリングするための機器

期待される効果

- 障害のある方の身体の状態が測定可能になることによる障害者スポーツの競技力向上
- 運動中の身体への負荷の状態や運動の質を見える化することによる、個々に応じた効果的・効率的なトレーニングサポート



産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

- **持続可能な子どものスポーツ環境づくりに向けて市町村ごとに関係者が連携して対応する体制づくり**
- **市町村の枠を超えて広域で連携する体制づくり**

取組内容

○市町村の関係者が連携して対応する体制づくり

- ・子どものスポーツ環境づくりについて、関係者が検討する協議会を設置
- ・協議会の運営や取りまとめを行うコーディネーターを配置
- ・協議会でまとめた対策を実施

(例)協議会メンバー

- ・教育委員会 ・学校 ・地域スポーツクラブ
- ・スポーツ推進委員 ・PTA ・地元企業 等

○広域で連携する体制づくり

- ・県内6地域で地域の実情に応じた広域的な活動を推進
(構成市町村の行政職員等で構成する促進委員会を設置)

安芸

嶺北

高幡

物部川

仁淀川

幡多

- **県内スポーツを企業が支援する体制づくり**

取組内容

○選手や指導者を県内企業に受け入れる仕組みづくり

- ・有望なアスリートやスポーツ指導者と県内企業をマッチングする取組の実施

企業

×

アスリート・指導者

○企業関係者で構成する本県スポーツを支援する協議会の取組の推進

- ・上記マッチングの取組に賛同する企業を中心に、本県のスポーツ振興に寄与する取組を検討する協議会を運営

- **障害者スポーツにおいて競技スポーツ選手の育成や強化活動などを支援する体制づくり**

取組内容

○競技スポーツに取り組む障害者の支援体制の充実

- ・障害者スポーツ選手の発掘・育成・強化活動や指導者の育成、大会の開催など、健常者の取組と同様に支援する体制づくりに向けた検討及び対策の実施



多様な主体の連携

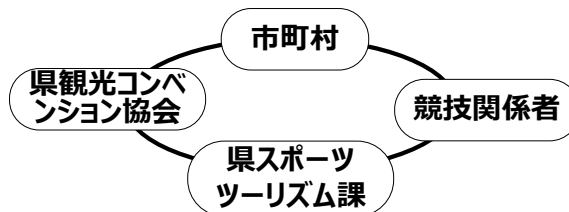


- **スポーツツーリズムに関する市町村や関係団体との連携強化**

取組内容

○スポーツツーリズムに関する市町村担当者会を実施

- ・市町村の実情や意向に応じたスポーツツーリズムの取り組みが効果的に進められるよう、市町村担当者会における情報共有や意見交換を実施する



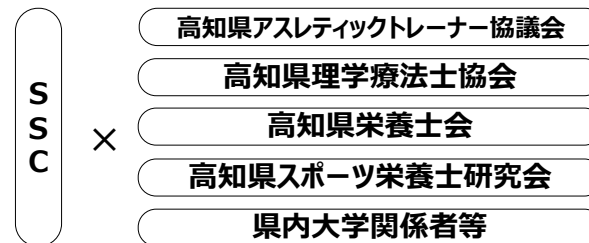
- **スポーツ医科学面から選手や指導者をサポートする体制の強化**

取組内容

○高知県スポーツ科学センター(SSC)への外部サポートスタッフの協力体制の強化

- ・新たに外部サポートスタッフとしての協力者を増やし、スポーツ医科学サポートの充実を図る

＜追加協力を求める主な関係団体・関係者＞



- **スポーツに関わる多様な関係者の連携体制の充実**

取組内容

○若者とスポーツ関係団体等が意見交換する場づくり

- ・高校生や大学生などの若者とスポーツを推進する多様な主体が集い、意見交換や情報共有する場の充実
- ・高知県内でスポーツを学ぶ高校生・大学生と、スポーツの発展・振興に取り組んでいる人々が、ともに学び交流する目的で設立された「高知県スポーツサミット」への参加団体の拡大

＜主な参加者＞



○スポーツに関する連携協定による取組の推進

- ・スポーツに関する連携協定を締結している機関、事業者、団体等との連携によるスポーツ機会の提供などの取り組みを実施

(パナソニック・大阪体育大学・阪神タイガース・PERF株式会社)

指標一覽

指標一覧

1 スポーツ参加の拡大

目標	目標値	改定当初	R6.12月時点実績
運動が好きな子どもの割合	R4から5ポイント増	小5男子92.1% 中2男子89.5% 小5女子85.9% 中2女子79.1%	小5男子92.5% 中2男子91.2% 小5女子84.7% 中2女子77.5%
成人の週1回以上のスポーツ実施率	65%	51% (R3) ※県民の健康・スポーツに関する意識調査	—
障害者が活動できるチームや団体数	37	27	30

施策の方向性	令和9年度末の 目指す姿	定量的な目標			
		指標	目標値	改定当初	R6.12月時点実績
(1) 身近な地域でスポーツに親しめる場の拡充	●運動やスポーツが好きな子どもが増加している ●地域ごとのスポーツ参加の拡大している	子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村の数	34	9	11
		広域で連携した取組が展開できているエリアの数	6	—	—
		マッチングプログラムの参加者数（R5から前年度比10%増の累計）	9,500人	1,420人	2,082人
		子どもの体力・運動習慣の向上	小中学生の男女とも全国平均を上回る	R4年度 小学5年男子:52.7(52.2) 小学5年女子:54.8(54.3) 中学2年男子:41.2(41.0) 中学2年女子:48.2(47.4) ※()は全国平均	小学5年男子:52.5(52.5) 小学5年女子:54.3(53.9) 中学2年男子:42.4(41.8) 中学2年女子:48.0(47.3) ※()は全国平均
		各地域のスポーツ実施率	R3と比較して全ての地域でスポーツ実施率が向上する	R3年度 安芸地区:40.7% 香美香南地区:48.2% 高知市:51.8% 土長南国地区:54.3% 吾川地区:49.2% 高岡地区:53.8% 幡多地区:50.3%	—
		女性の週1回以上のスポーツ実施率	65%	49.9%	—
		「スポーツNAVI」のページビュー数	11万	72,619	45,550
		「ス泊るKOCHI」のセッション数	毎年7.3万セッション以上	3.2万セッション	165,694セッション
(2) 担い手の育成及び活動の活性化	●地域地域でスポーツを支援する人材の育成・確保が進んでいる	有資格指導者の数	R4から10%増	日本スポーツ協会競技別指導者資格:1,419人 日本バラスポーツ協会指導員資格:207人	日本スポーツ協会競技別指導者資格:1,445人 日本バラスポーツ協会指導員資格:209人
		育成したボランティアリーダーの数	50人	—	0
		スポーツサミットを通して若者から提言された取組の数	10	—	1

指標一覧

1 スポーツ参加の拡大

施策の方向性	令和9年度末の 目指す姿	定量的な目標			
		指標	目標値	改定当初	R6.12月時点実績
(3) 障害者が スポーツに親しめる 環境づくり	●障害者のスポーツ 参加が拡大している	障害者がスポーツ活動をする ことができる団体数	37	27	30
		障害者スポーツセンターと連携 し地域の活動支援を行う体制 ができていますエリアの数	6	1	3
		発掘の取組により中央競技 団体に登録した選手数	25人	—	—
		中央競技団体への登録者数	220人	192人	—
		誘致した大会数 (R5からの累積数)	5	1	1
(4) スポーツに おける安心・安全 の確保	●安心・安全にス ポーツに親しむことが できる環境づくりが進 んでいる	研修会の参加者数	毎年200人以上	214人	69人
(5) デジタル技 術の活用	●スポーツにおけるデ ジタル技術の活用が 進んでいる	リモートによる活動への参加者 数	10,840人	7,648人	8,050人 (10月末時点)
		「スポーツNAVI」のページ ビュー数	11万	72,619	45,550
		「スポるKOCHI」のセッション数	毎年7.3万セッション以上	3.2万セッション	165,694万セッシ ョン
(6) スポーツを 通じた健康増進 や生きがいづくり	●個人や地域で健 康づくりや生きがいづ くりにつながる取り組 みが増加している	健康パスポートアプリDL件数	5万件 (R5年度)	41,799件 (R5.2月末)	20,504件 (R6.11月末 男性のみ)
		各地域のスポーツ実施率	R3と比較して全ての地域 でスポーツ実施率が向上	R3年度 安芸地区:40.7% 香美香南地区:48.2% 高知市:51.8% 土長南国地区54.3% 吾川地区:49.2% 高岡地区:53.8% 幡多地区:50.3%	—
(7) 産学官民 の連携によるス ポーツを支える体 制の充実	●スポーツ参加の拡 大に向けて持続可能 で効果的なスポーツ の推進体制が充実し ている	子どものスポーツ環境づくりにつ いて関係者が連携して対応す る体制をつくり取り組んでいる 市町村の数	34	9	11
		広域で連携した取組が展開 できているエリアの数	6	—	2
		多様な主体の意見交換や情 報共有する場への参加団体 数	10	—	5
		連携協定による活動数	R4と比較して20%増加	24	27

2 競技力の向上

目標	目標値	改定当初	R6.12月時点実績
全国入賞や国際大会に出場する選手・団体	200	138	167
全国や世界を目指す障害者アスリート数	220人	192人	208人

施策の方向性	令和9年度末の 目指す姿	定量的な目標			
		指標	目標値	改定当初	R6.12月時点実績
(1) 全国や世界を目指す選手の育成	●全国や世界の舞台で活躍する選手が多くの競技で育っている ●障害者のスポーツ活動において全国や世界を目指す選手が増えている	全国中学校体育大会の入賞競技数	9	7	6競技
		全国高等学校総合体育大会の入賞競技数	15	10	9競技
		スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数	30	20	19団体
		高知くろしおキッズに応募する子どもの数	200人	145人	87人
		障害者スポーツの発掘事業で選抜した選手数	25人	—	—
(2) 担い手の育成及び活動の活性化	●競技力向上に携わるスポーツ指導者が増加している ●スポーツ指導者の指導力が向上している	有資格指導者の数	R4から10%増	日本スポーツ協会競技別指導者資格：1,419人 日本バラスポーツ協会指導員資格：207人	日本スポーツ協会競技別指導者資格：1,445人 日本バラスポーツ協会指導員資格：209人
		全高知チームにおける実践研修の実施状況	全ての全高知チームで実践研修が行われている	—	14
		高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数	毎年200人以上	214人	69人
(3) デジタル技術の活用	●スポーツにおけるデジタル技術の活用が進んでいる	リモートによる活動への参加者数	10,840人	7,648人	8,050人 (10月末時点)
(4) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実	●競技力の向上につながる持続可能で効果的な支援体制が充実している	高知県スポーツ科学センターと連携する外部スタッフ数	35人	21人	17人

3 スポーツを通じた活力ある県づくり

目標	目標値	改定当初	R6.12月時点実績
スポーツによる県外からの入込客数	12万人	53,161人	91,775人

施策の方向性	令和9年度末の 目指す姿	定量的な目標			
		指標	目標値	改定当初	R6.12月時点実績
(1) スポーツを通じた経済・地域の活性化	●スポーツによる県内の交流人口が拡大している ●スポーツによる県外からの誘客が増加している	プロスポーツ・トップチームの誘致による県外からの入込客数	8万人	32,662人	66,169人
		アマチュアスポーツの誘致による県外からの入込客数	1万人	3,926人	4,244人
		スポーツ大会等による県外からの入込客数	3万人	16,573人	21,362人
		地元プロチームのホーム戦の県内外からの入込客数	○高知FD：1.2万人 ○高知USC：2万人	○高知FD:9,095人 ○高知USC:13,795人	○高知FD:12,902人 ○高知USC:34,421人
(3) デジタル技術の活用	●スポーツにおけるデジタル技術の活用が進んでいる	「スポーツNAVI」のページビュー数	11万	72,619	45,550
		「ス泊るKOCHI」のセッション数	毎年7.3万セッション以上	3.2万セッション	165,694セッション

第5章

計画の進捗管理

第5章 計画の進捗管理

1.進捗管理

本計画は、本県のスポーツ振興施策を組織横断的に一体となって推進するため、知事を本部長に庁内に設置した「高知県スポーツ振興推進本部」と県内の産学官民が連携・協力して本県のスポーツ振興をより強力に推進していくことを目的に、2つの専門部会を設置した「高知県スポーツ振興県民会議」が両輪となって、計画の検証・評価を行い、計画の着実な実行に向けて進捗管理を行います。

2.体制図

高知県スポーツ振興県民会議

**産学官民が連携して本県全体のスポーツ振興を強力に推進
(役割)**

- ・高知県スポーツ推進計画の策定・変更、検証・評価
- ・スポーツ振興への協力・支援

(構成員)

スポーツ関係団体、商工業、企業スポーツ、交通運輸、生涯スポーツ、スポーツツーリズム、障害者スポーツ、市町村長代表者、有識者

専門部会

スポーツ振興に関する専門分野を調査・審議・提案する

- 地域スポーツ推進部会
- 競技力向上部会

高知県スポーツ振興推進本部

**本県のスポーツ振興施策を組織横断的に一体となって推進
(役割)**

- ・「高知県スポーツ推進計画」の着実な実行とPDCAサイクルの徹底

(構成員)

本部長	知事
副本部長	副知事
本部長次長	観光振興スポーツ部長
本部員	総合企画部長
本部員	総務部長
本部員	健康政策部長
本部員	子ども・福祉政策部長
本部員	文化生活部長
本部員	産業振興推進部長
本部員	商工労働部長
本部員	土木部長
本部員	教育長
オブザーバー	(公財)高知県観光コンベンション協会 専務理事



高知県
Kochi Prefecture

観光振興スポーツ部スポーツ課

高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号（高知県庁西庁舎）

電話：088-821-4712（直通） F A X：088-821-4716